

**若い世代(21～40 歳)が住みやすい
まちづくりについてのアンケート調査**

報告書

平成 27 年 11 月

津 島 市

目 次

序 章 調査の概要	1
1. 調査の目的.....	1
2. 調査方法.....	1
3. 回収結果.....	1
第1章 回答者のプロフィール	2
1. 性別・年齢.....	2
2. 職業.....	4
3. 勤務・従業地.....	6
4. 小学校区.....	8
5. 居住年数.....	10
6. 家族構成.....	10
7. 結婚の有無.....	12
第2章 結婚や子どもを持つことについて	14
1. 結婚意向.....	14
2. 未婚の理由.....	16
3. 婚活の有無.....	18
4. 参加したいと思う婚活.....	20
5. 欲しいと思う子どもの数.....	22
6. 子どもを持つために必要な条件や環境.....	24
第3章 子育てについて	26
1. 現在の子どもの人数.....	26
2. 子どもの年齢.....	28
3. 保育園や幼稚園の入園状況.....	28
4. 配偶者の就労状況.....	29
5. 家庭での育児・家事の役割分担.....	31
6. 子育てにおける周りの支えの重要度.....	33
7. 出産・育児の支援策.....	35
第4章 津島市に住むことについて	37
1. 津島市の住みやすさ.....	37
2. 住宅の種類.....	39

3. 居住意向	41
4. 住み続ける理由	43
5. 住み替えたい理由	45
6. 住み替えたい地域	47

第5章 津島市の将来のまちについて 49

1. 居住者が増えるための政策	49
2. 若者が暮らしやすいまちづくり	51

第6章 自由記入意見のまとめ 53

1. 調査の目的

津島市では、まち・ひと・しごと創生法の規定に基づき、「まち・ひと・しごと創生総合戦略」の策定を進めています。

全国的に人口減少や少子高齢化が進んでおり、津島市においても若い世代が住みやすいまちづくりが必要です。

このため、市内在住の若い世代を対象として、結婚や子育てに対する意識などの実態や定住意識、人口定住の推進や若者が暮らしやすいまちづくりについての意見を把握し、市政に反映していくとともに、若い世代の定住や流入促進を図るためにアンケート調査を実施しました。

2. 調査方法

本調査の概要は以下に示すとおりである。

- (1) 調査対象 : 津島市在住の 21 歳～40 歳までの男女
- (2) 対象者数 : 1,000 人
(住民基本台帳(平成 27 年 4 月 1 日現在)から無作為抽出)
- (3) 調査方法 : 郵送配布・郵送回収
- (4) 調査期間 : 平成 27 年 8 月 5 日～9 月 4 日

3. 回収結果

アンケートの回収結果は以下に示すとおりである。

配布数	1,000 票
有効配布数	996 票
有効回収数	269 票
有効回収率	26.8%

◇集計方法及び結果の表示方法

- ① 図中の構成比 (%) は、小数点以下第 2 位を四捨五入しているため、合計は必ずしも 100.0%にはなりません。
- ② 複数回答の場合の回答割合 (%) は回答者数を母数としており、合計は 100%を超えます。
- ③ 選択肢についての文中の記述は調査票の記述をそのまま用いていますが、図表中については略している場合があります。

第1章 回答者のプロフィール

1. 性別・年齢

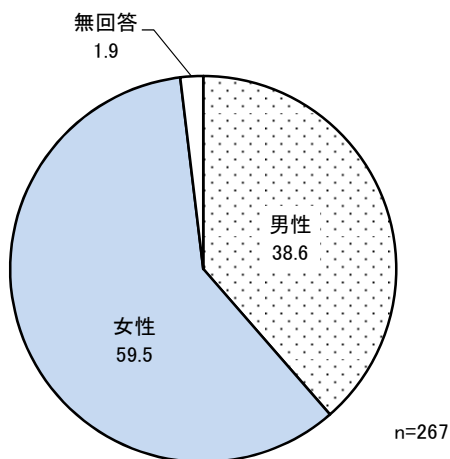
問1 あなたの性別・年齢を教えてください。

①性別

◆男性 38.6%、女性 59.5%と、女性の割合が高くなっています。

○回答者の性別をみると、「男性」が 38.6%、「女性」が 59.5%となっており、女性の回答者の割合が 20 ポイント強、高くなっています。

図表 1-1-1 性別



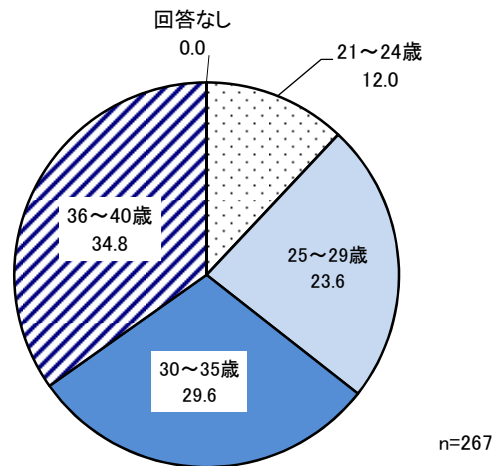
②年齢

◆「36～40歳」が最も多く、30～40歳で65%弱に達します。

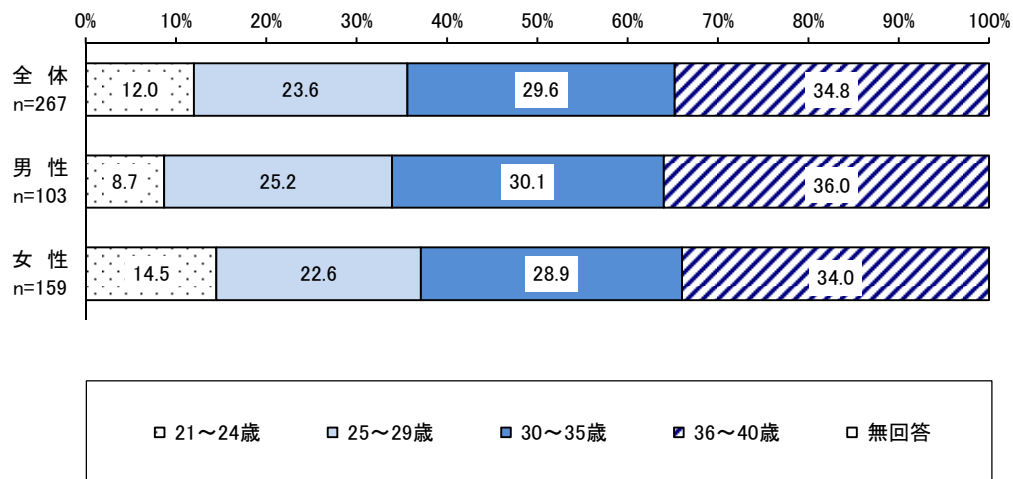
○回答者の年齢をみると、「36～40歳」が34.8%と最も多く、次いで「30～35歳」が29.6%となっており、あわせて30～40歳が65%弱に達します。

○「25～29歳」が23.6%、「21～24歳」が12.0%となっています。

図表 1-1-2 年齢



図表 1-1-3 年齢（性別）



2. 職業

問2 あなたの職業を教えてください。

◆職業は、「会社・商店等勤務」が45.4%と最も多く、次いで「主婦・学生」が約20%です。

○回答者の職業は「会社・商店等勤務」が45.4%で最も多く、次いで「主婦・学生」(19.9%)、「公務員・団体職員」(12.7%)、「自営商業・サービス業」(8.2%)などとなっています。

【性別】

○男性では「会社・商店等勤務」が64.2%を占め、「公務員・団体職員」が16.5%と女性より高くなっています。

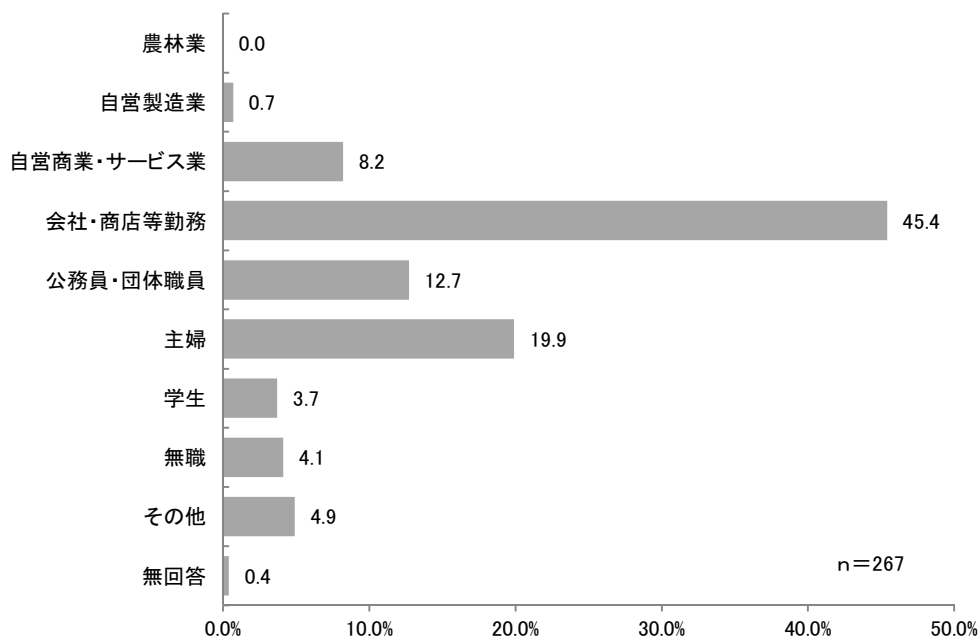
○女性では「主婦」が33.4%を占めています。

【所属】

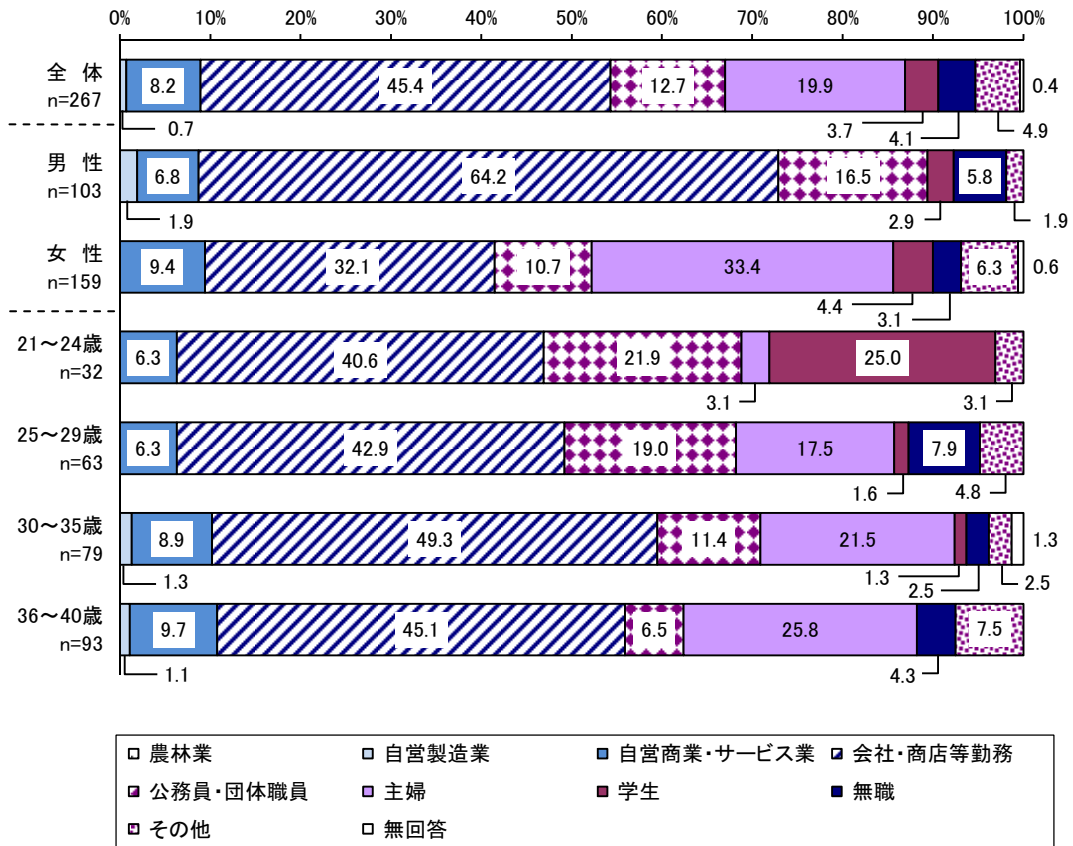
○21～24歳では「学生」は25.0%、21～29歳では「公務員・団体職員」が約20%と他の年齢層より高くなっています。

○30～35歳では「会社・商店等勤務」が49.3%、36～40歳では「主婦」が25.8%と高くなっています。

図表 1-2-1 職業



図表 1-2-2 職業（性別・年齢別）



3. 勤務・従業地

問3 就業している方におたずねします。あなたの勤務・従業地をお教えてください。

◆勤務・従業地先は、名古屋市が最も多く、次いで津島市、西濃地域となっており、西濃地域内で8割以上を占めています。

○働いている回答者 179 名の勤務・従業地先については、「名古屋市」が 33.5%で最も多くなっています。次いで「津島市内」が 22.3%で「自宅」(3.4%)をあわせた市内が約 26%、『津島・海部地域』が 47%となっています。

○「尾張の北部、西部」(8.4%)と「知多地域・西三河地域」(2.8%)、「その他愛知県愛」(1.7%)をあわせると約 13%、さらに『愛知県内』は約 93%です。「岐阜県内・三重県内」は 6.1%です。

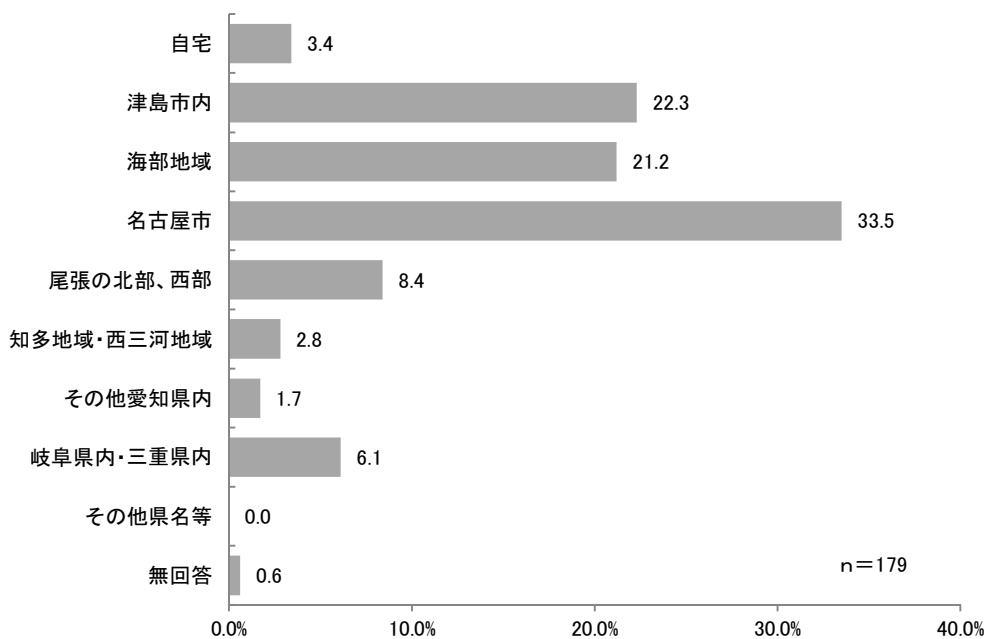
【性別】

○女性で「海部地域」が 24.1%、さらに『津島・海部地域』(「自宅」+「津島市内」+海部地域))が約 50%、『愛知県内』が 95%以上と男性よりも高くなっています。

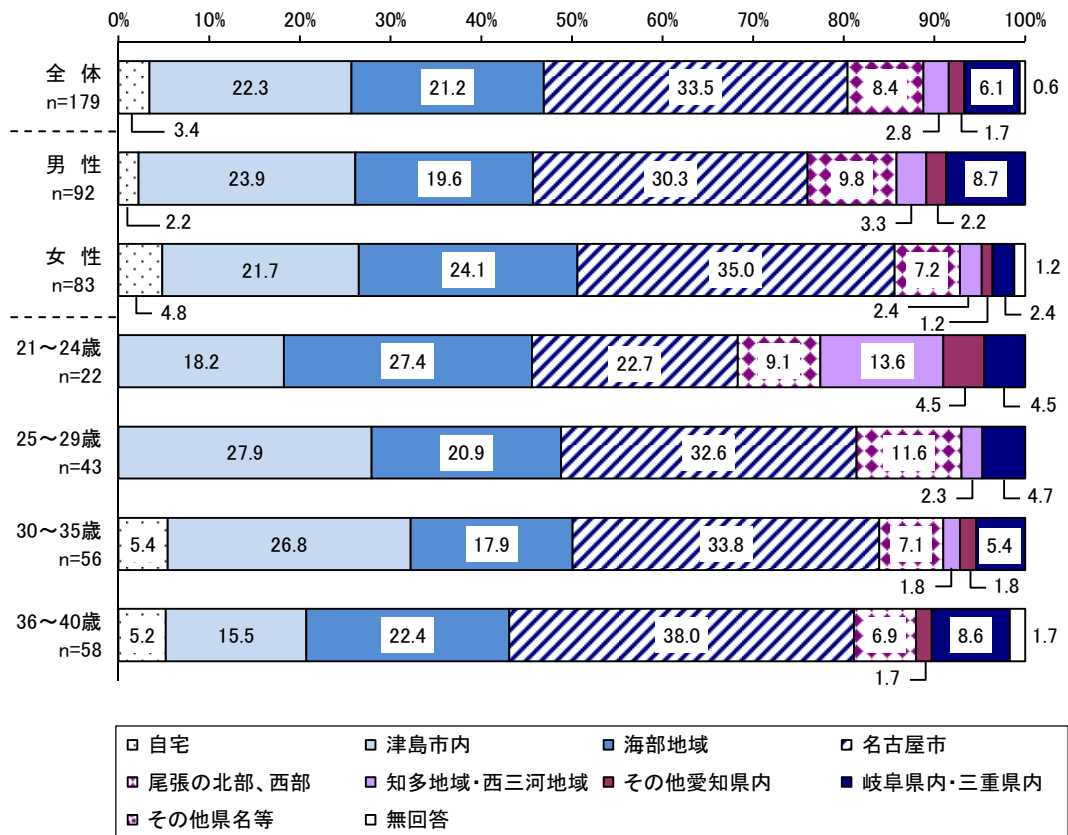
【年齢別】

○21～24歳で「海部地域」(27.4%)、25～35歳で「津島市内」(約 27%)、36～40歳で「名古屋市」(38.0%)が他の年齢層よりも高くなっています。さらに、25～29歳では「尾張の西部」(11.6%)も高くなっています。

図表 1-3-1 勤務・従業地



図表 1-3-2 勤務・従業地（性別・年齢別）



4. 小学校区

問4 あなたのお住まいの地区を教えてください。

◆居住地は「西小学校区」と「神守小学校区」が15%以上と多くなっています。

○回答者の住まいの地区については、「西小学校区」が20.3%、次いで「神守小学校区」(16.9%)、「東小学校区」(14.2%)、「南小学校区」(12.0%)が多くなっています。

○「神島田小学校区」(9.7%)、「蛭間小学校区」(9.4%)、「高台寺小学校区」(7.1%)、「北小学校区」(7.1%)は10%以下です。

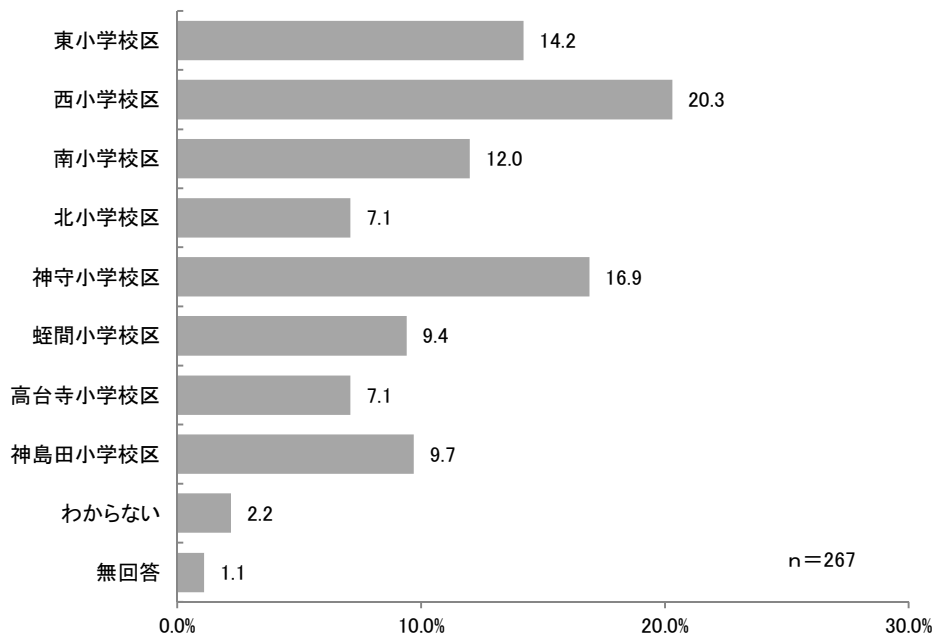
【性別】

○男性で「北小学校区」と「蛭間小学校区」が約12%で、女性より高くなっています。

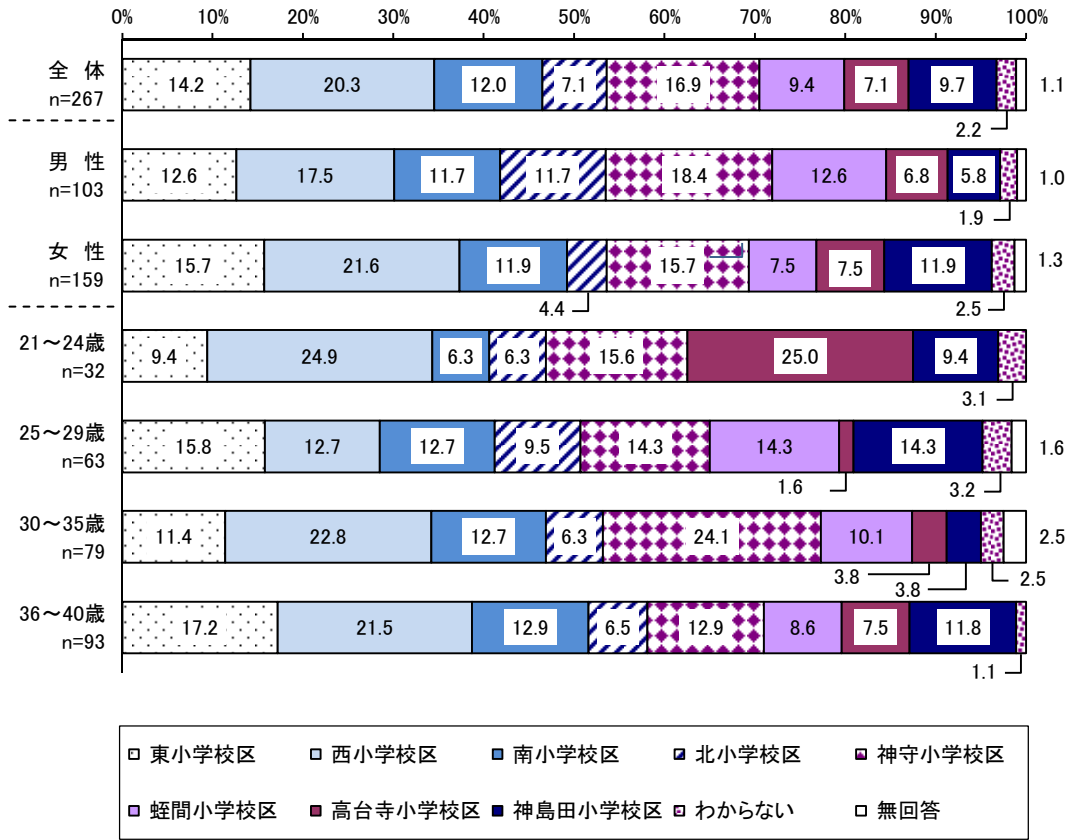
【年齢別】

○年齢層によって特色があり、21～24歳では「西小学校区」と「蛭間地区」が約25%、25～29歳で「蛭間小学校区」と「神島田小学校区」が約14%、

図表 1-4-1 住まいの小学校区



図表 1-4-2 住まいの小学校区（性別・年齢別）



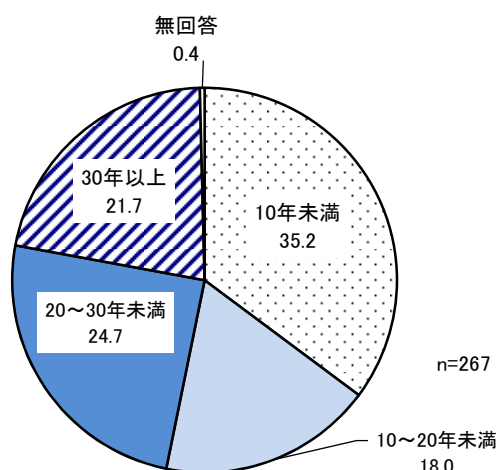
5. 居住年数

問5 津島市での居住年数を教えてください。

◆回答者の居住年数は、20年未満が半数を超えています。

- 回答者の居住年数は、「10年未満」が35.2%、「10から20年未満」が18.0%で、あわせて20年未満が約53%です。
- 「20～30年未満」が24.7%、「30年以上」が21.7%で、あわせて20年以上が約46%です。

図表 1-5-1 居住年数



6. 家族構成

問6 家族構成について教えてください。

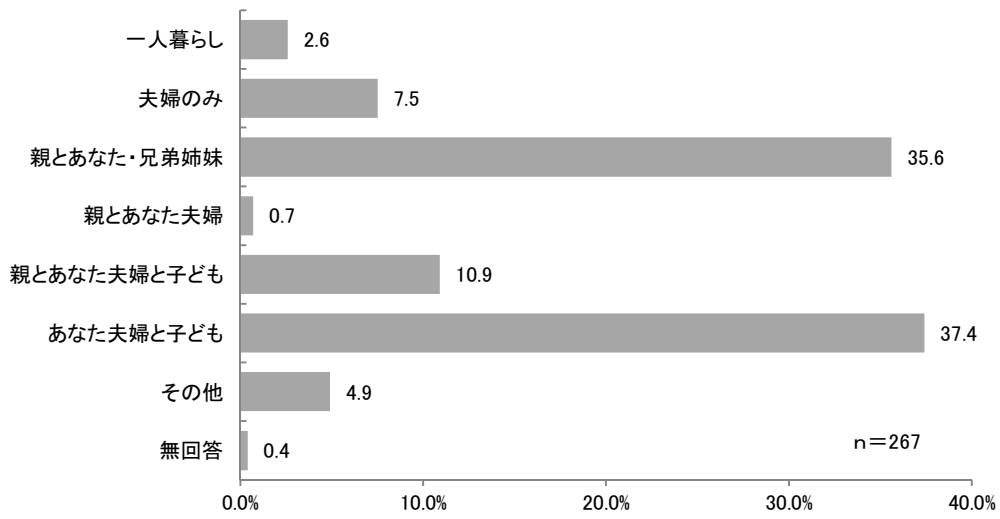
◆家族構成は、核家族（二世代の世帯）の「あなた夫婦と子ども（父と子、母と子も含む）」と「親とあなた・兄弟姉妹」で70%を超えています。

- 回答者の家族構成については、「あなた夫婦と子ども（父と子、母と子も含む）」（37.4%）と「親とあなた・兄弟姉妹」が35.6%と、これらの核家族（二世代の世帯）がほぼ並んでいます。
- 次いで「親とあなた夫婦と子ども（親と父と子、親と母と子も含む）」は10.9%となっています。
- 「夫婦のみ」は7.5%で、「一人暮らし」は2.6%とわずかです。

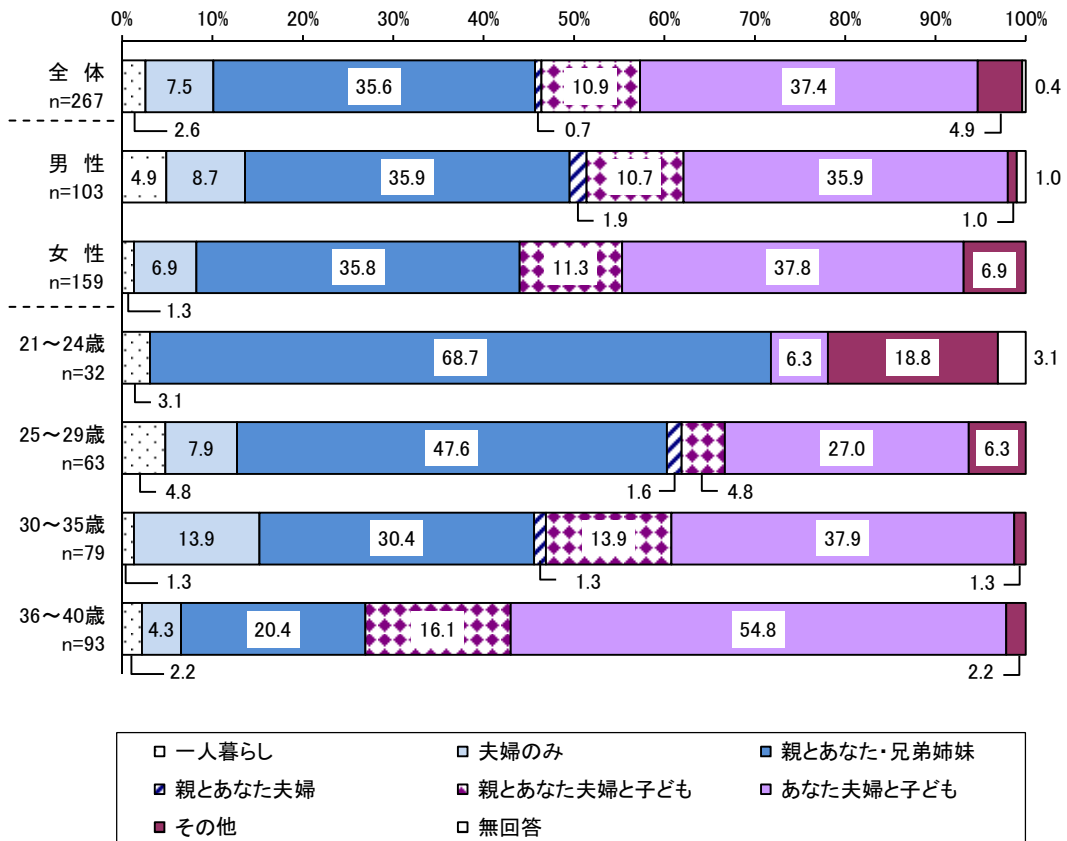
【年齢別】

- 21～24歳から36～40歳にかけて連携層が上がるにしたがって「親とあなた・兄弟姉妹」は68.7%から20.4%と低くなり、逆に「あなた夫婦と子ども」は6.3%から54.8%と高くなっています。

図表 1-6-1 家族構成



図表 1-6-2 家族構成 (性別・年齢別)



7. 結婚の有無

問7 あなたは結婚していますか。

◆約60%が既婚、約40%が未婚となっています。

○「結婚している」が57.7%で最も多く、「結婚していない」が39.0%となっています。

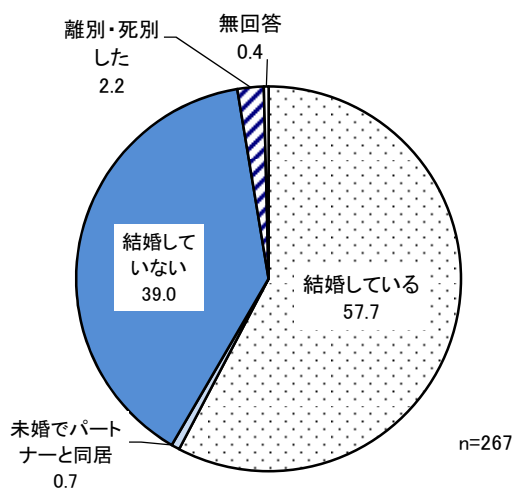
【性別】

○男性で「結婚している」が61.1%と女性よりも高くなっており、統計では男性の未婚率は女性よりも高いですが本調査の回答者では女性の未婚率が高くなっています。

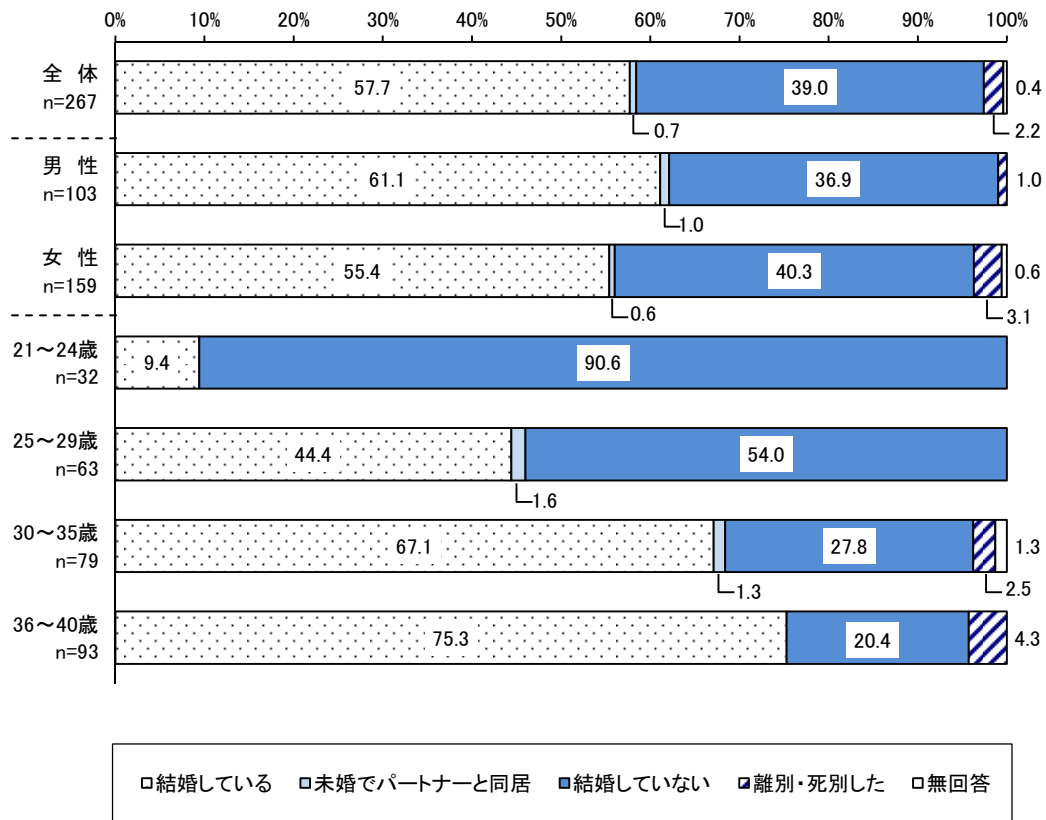
【年齢別】

○年齢が高くなるにつれて「結婚している」の割合が高くなり、36～40歳では4分の3以上となっています。一方、「結婚していない」は30から35歳で27.8%、36～40歳で20.4%見られます。

図表 1-7-1 結婚の有無



図表 1-7-2 結婚の有無（性別・年齢別）



第2章

結婚や子どもを持つことについて

1. 結婚意向

問8 あなたは、将来、結婚したいと思いますか。(結婚していない112人を対象)

◆結婚意向については、「いずれは結婚するつもりである」が45.5%で最も割合が高く、「既に婚約している」、「できるだけ早く結婚したい」、「いずれは結婚するつもりである」をあわせて、結婚の意向のある方は68.7%となっています。

○結婚していない112人の将来の結婚意向については、「いずれは結婚するつもりである」が48.3%で最も多くなっています。

○次いで「できるだけ早く結婚したい」と「わからない」が19.6%、「結婚するつもりはない」が7.1%です。

【性別】

○男性で「できるだけ早く結婚したい」が45.0%と女性より低く、「わからない」が30.0%と女性の倍程度のポイントとなっています。

○女性では「既に婚約している」が7.1%見られます。

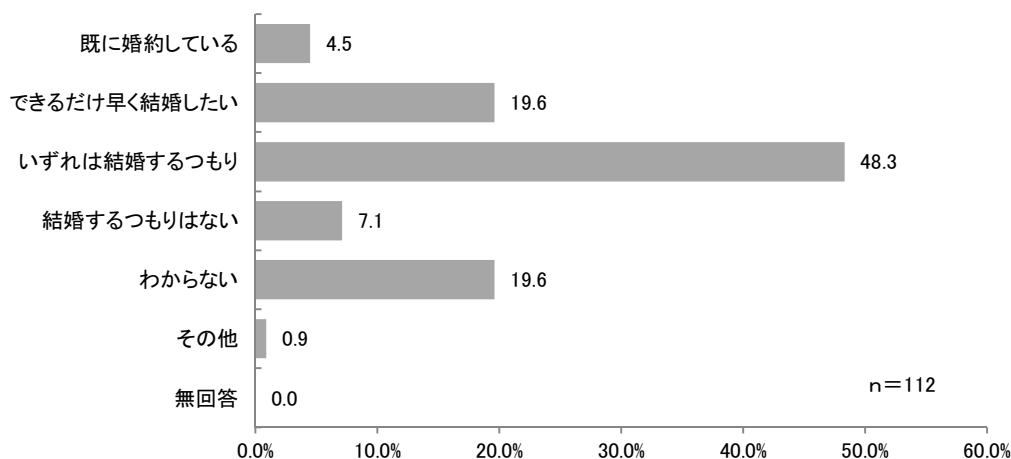
【年齢別】

○21～24歳では「いずれは結婚するつもり」が79.4%と圧倒的に高く、25～29歳でも57.2%見られます。

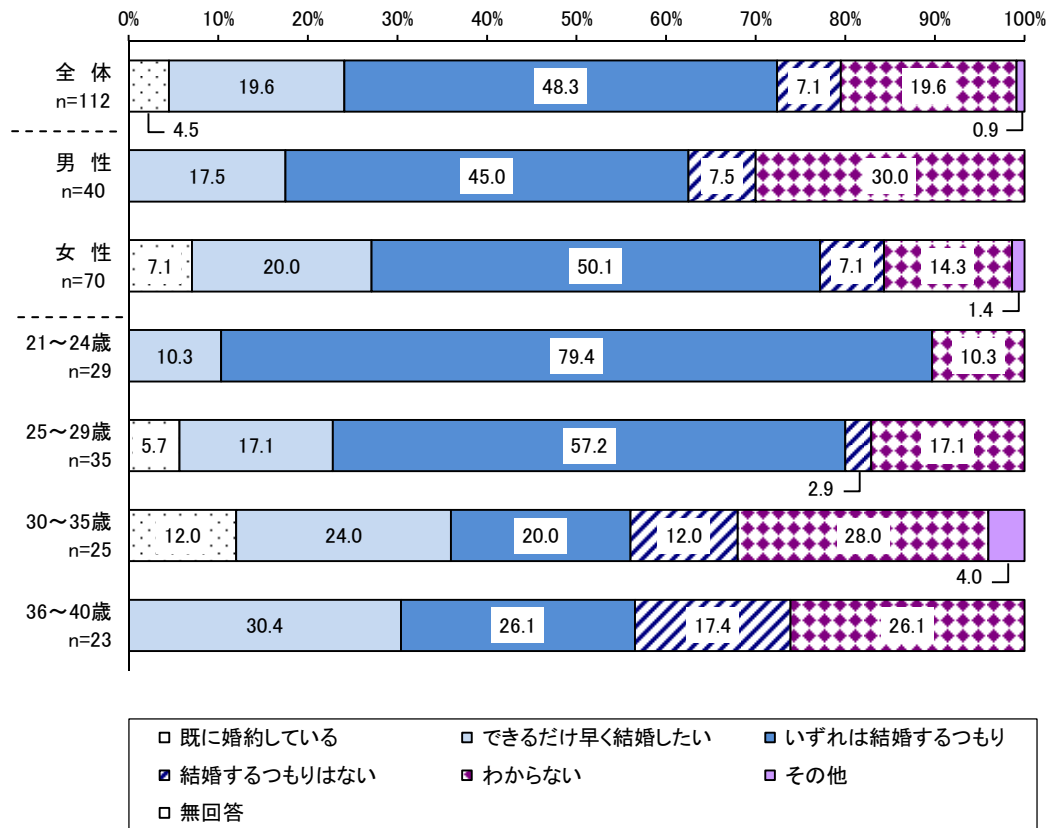
○30～40歳では「わからない」や「できるだけ早く結婚したい」が概ね25%を超え、「結婚するつもりはない」も30歳未満よりも高くなっています。

○また、36～40歳では、「できるだけ早く結婚したい」が30.4%と年齢層の中で最も高い割合ですが、「結婚するつもりはない」も17.4%と最も高く、結婚に対する意向が分かれています。婚活を進めることが人口対策のために大きな課題であるとうかがえます。

図表 2-1-1 結婚意向



図表 2-1-2 結婚意向（性別・年齢別）



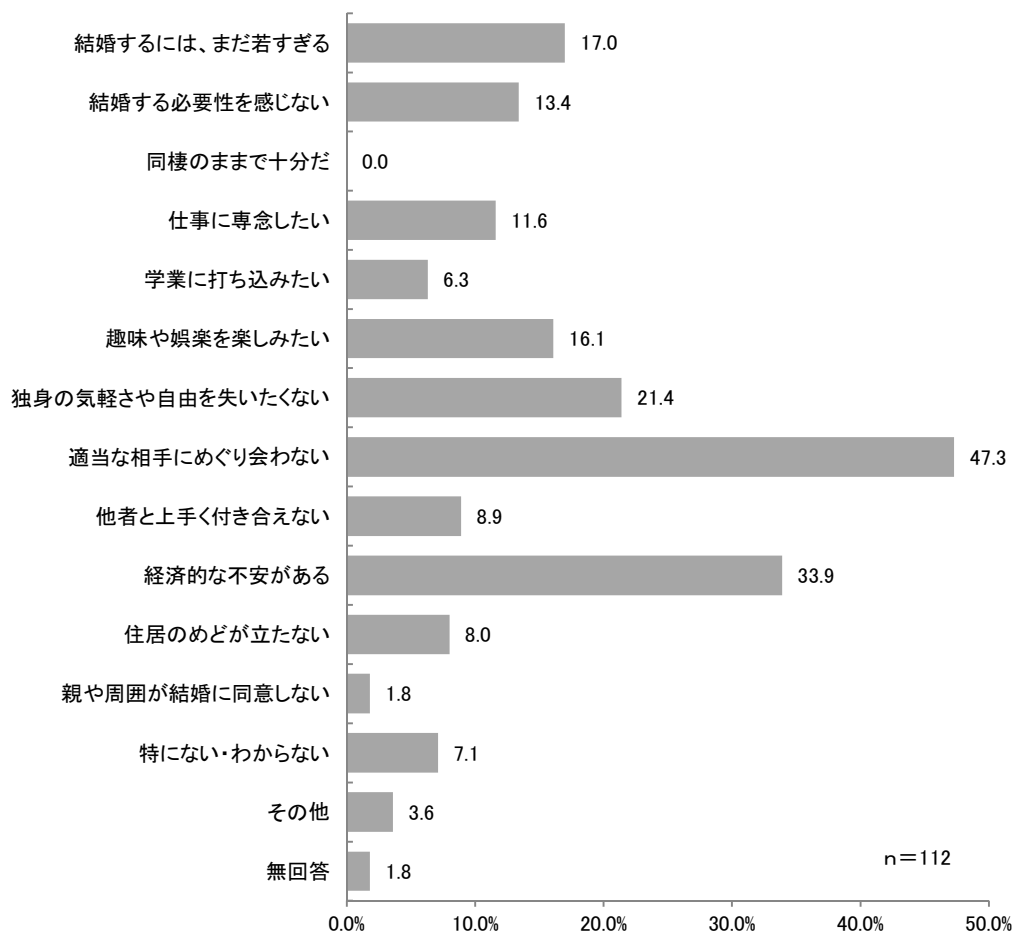
問9 あなたが未婚の理由は何ですか。(結婚していない方 112 人を対象)

◆未婚の理由については、「適切な相手にめぐり会わないから」が最も割合が高く、次いで「経済的な不安があるから」と出会いや経済的理由、さらに、独身でいたい、結婚の必要性がないなどの理由があげられています。

○未婚の理由については、「適切な相手にめぐり会わないから」が 47.3%で最も割合が高くなっています。

○次いで「経済的な不安があるから」が 33.9%、「独身の気軽さや自由を失いたくないから」が 21.4%、「結婚するには、まだ若すぎるから」が 17.0%、「趣味や娯楽を楽しみたいから」が 16.1%です。さらに、「結婚する必要性を感じないから」(13.4%)と「仕事に専念したいから」(11.6%)が 10%を超えています。

図表 2-2-1 未婚の理由



【性別】

○男性では、「経済的な不安があるから」が 52.5%と女性の倍以上となっており、「独身の気軽さや自由を失いたくないから」も 30.0%と女性よりかなり高くなっています。

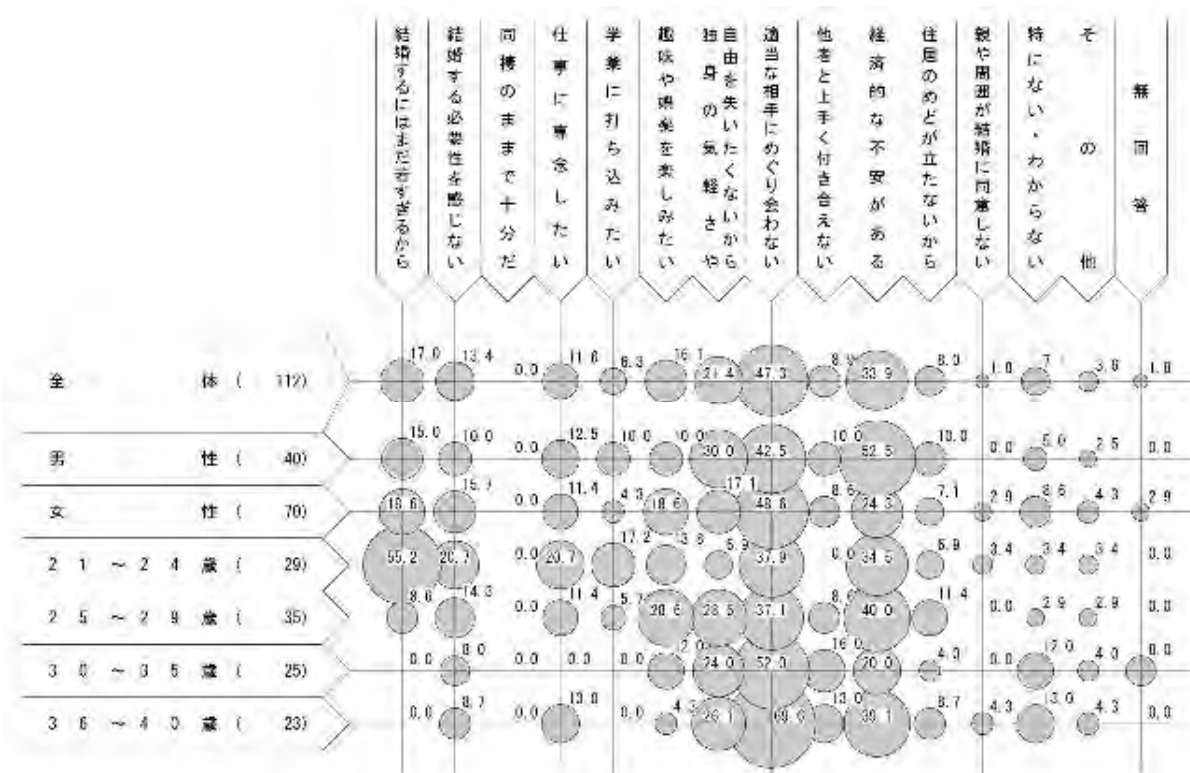
【年齢別】

○21～24 歳では「結婚するには、まだ若すぎるから」が 55.2%と特に高く、「結婚する必要性を感じないから」と「仕事に専念したいから」が 20.7%、「学業に打ち込みたい」が 17.2%と他の年齢層より高く、予想される結果となっています。

○25～29 歳では「趣味や娯楽を楽しみたいから」(28.6%)と「住居のめどが立たない」(11.4%)が、他の年齢層よりも特に高くなっています。また、25 歳～29 歳と 36～40 歳では、「経済的な不安があるから」が約 40%、「独身の気軽さや自由を失いたくないから」が 25%以上と他の年齢層よりも高く、30～40 歳では「適切な相手にめぐり合わないから」(36～40 歳では約 70%)と特に高くなっています。

○経済的な不安の解消とともに、婚活の機会を提供することが重要な課題であるとうかがえます。

図表 2-2-2 未婚の理由



3. 婚活の有無

問 10 結婚したいと思う方におたずねします。あなたは、婚活をしていますか。(結婚していない112人のうち問8で「2. できるだけ早く結婚したい」「3. いずれは結婚するつもりである」と回答した76人を対象)

◆結婚したいと思う回答者では、「特に婚活をしていない」が約80%と圧倒的に多くなっています。

○問8で「できるだけ早く結婚したい」「いずれは結婚するつもりである」と回答された76人の婚活の取り組み状況については、「特に婚活をしていない」が79.0%で圧倒的に多くなっています。

○次いで「現在、婚活をしている」が7.9%、「以前は婚活をしていたが、現在はしていない」が2.6%、「何ともいえない」が9.2%となっています。

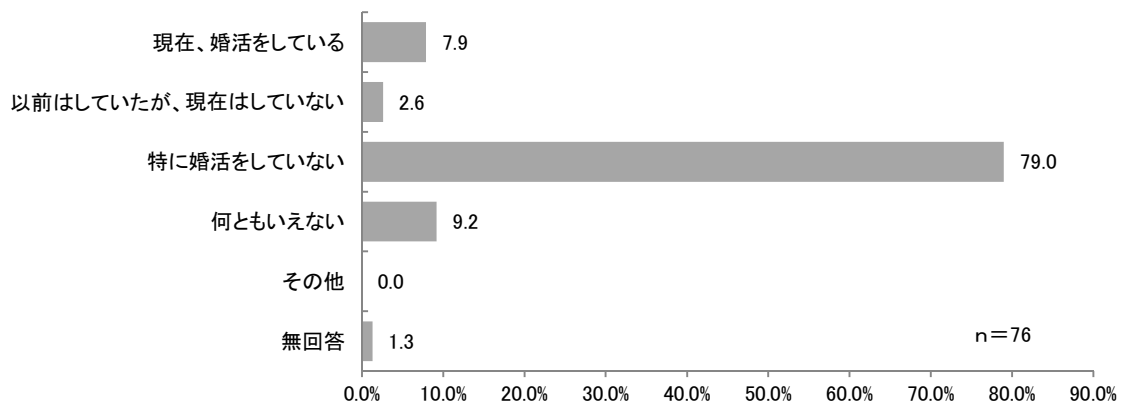
【性別】

○男性では「何ともいえない」が16.0%と女性より高く、女性では「特に婚活をしていない」が81.7%と男性よりも約10ポイント高くなっています。

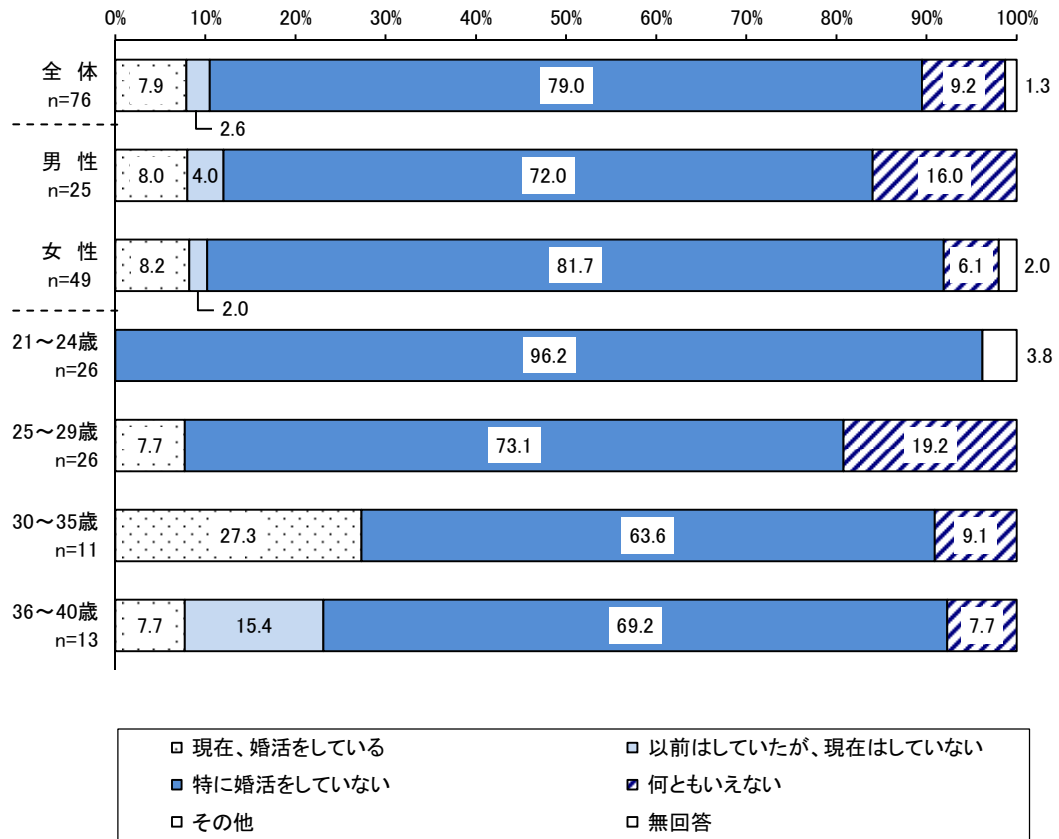
【年齢別】

○30～35歳で「現在、婚活をしている」が3人(27.3%)とピークとなっており、30代前半を中心に婚活していると思われます。

図表 2-3-1 婚活の有無



図表 2-3-2 婚活の有無（性別・年齢別）



4. 参加したいと思う婚活

問 11 あなたは、どのような婚活なら参加したいと思いますか。(結婚していない 112 人のうち問 8 で「2. できるだけ早く結婚したい」「3. いずれは結婚するつもりである」と回答した 76 人を対象)

◆参加したいと思う婚活は、友達と一緒に気楽に参加、参加者同士どんな人か知る機会が、それぞれ 40%強と希望されています。

- 参加したいと思う婚活は、「友達と一緒に気楽に参加することができる」が 42.9%、「参加者同士が交流でき、どんな人か知る機会がある」が 40.2%と割合が高くなっています。
- 「参加した人のほかの人の性格や良さに気づくことができる」が 17.9%、「教養や趣味、ファッション、メイクなど自分自身を磨くことができる」が 17.0%、「気軽にできるスポーツを楽しむことができる」が 13.4%です。

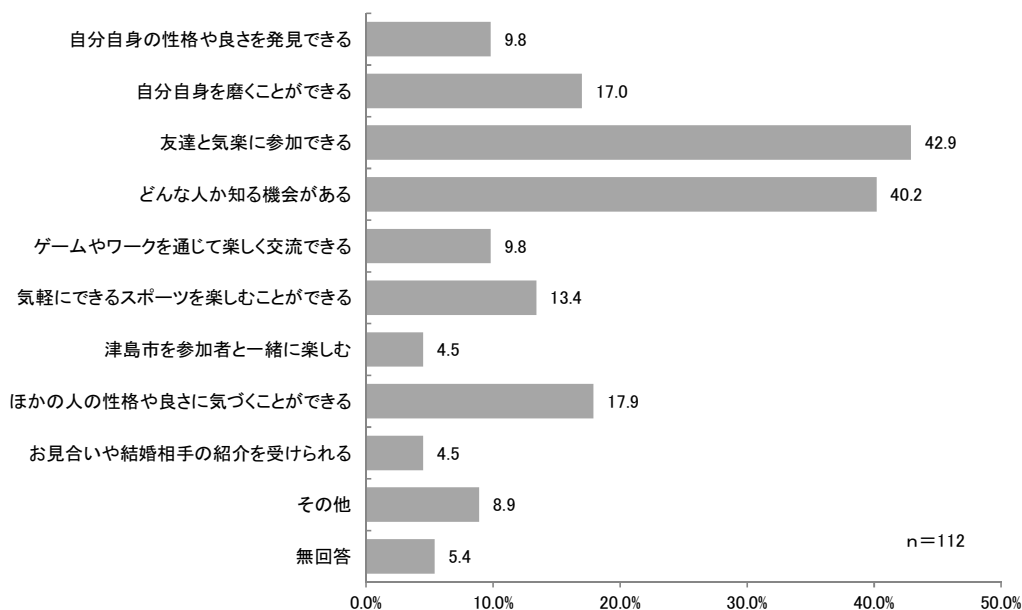
【性別】

- 男女で希望が異なり、男性では「参加者同士が交流でき、どんな人か知る機会がある」(45.0%)と「参加した人のほかの人の性格や良さに気づくことができる」(25.0%)、「気軽にできるスポーツを楽しむことができる」(22.5%)、「ゲームやワークを通じて楽しく交流できる」(15.0%)が女性よりも高くなっています。
- 女性では「友達と一緒に気楽に参加することができる」(50.0%)と「教養や趣味、ファッション、メイクなど自分自身を磨くことができる」(20.0%)が高くなっています。

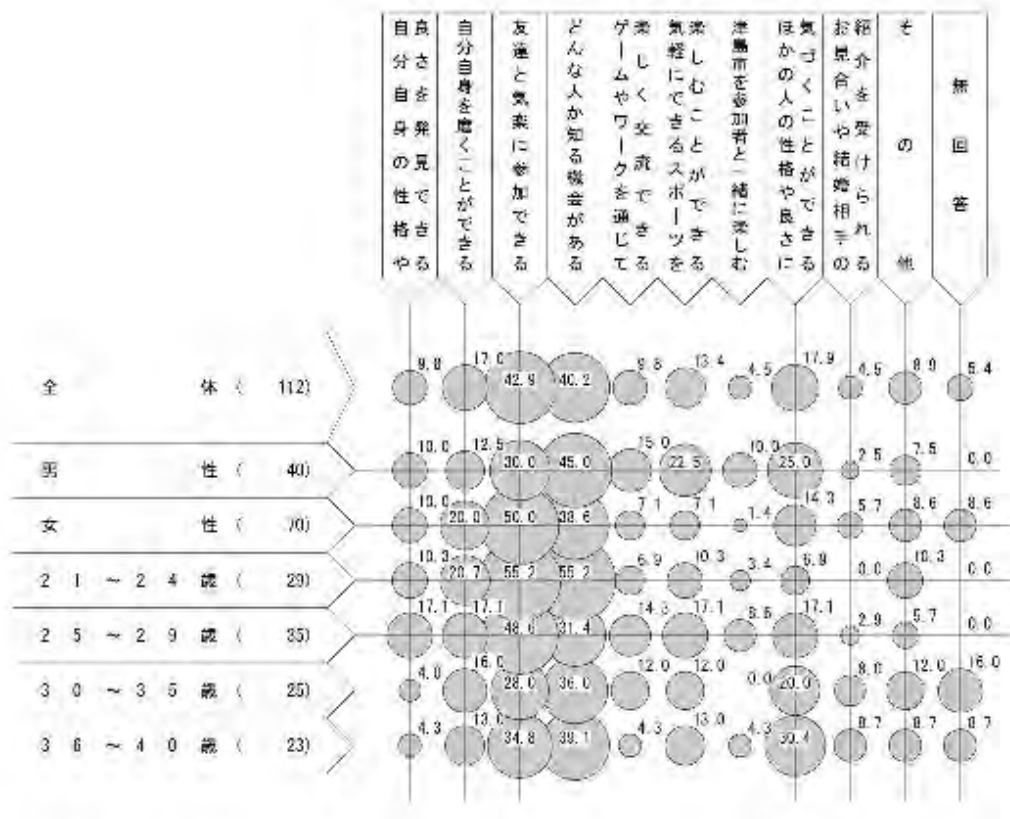
【年齢別】

- 回答者数が少ないですが、21～24 歳では「友達と一緒に気楽に参加することができる」と「参加者同士が交流でき、どんな人か知る機会がある」が 55.2%とほかの年齢層よりも高くなっています。
- 25～29 歳では「友達と一緒に気楽に参加することができる」(48.6%)、「気軽にできるスポーツを楽しむことができる」(17.1%)などが高く、30～40 歳では「お見合いや結婚相手の紹介を受けることができる」という回答(計 4 人)も見られます。

図表 2-4-1 参加したいと思う婚活



図表 2-4-2 参加したいと思う婚活（性別・年齢別）



5. 欲しいと思う子どもの人数

問 12 あなたは、何人ぐらい子どもをほしいですか。既にお子さんをお持ちの場合は、理想的に全部で何人欲しいですか。

◆理想的な子どもの人数は2人が半数を超え、平均で2.3人です。

- 理想的な子どもの人数については、「2人」が52.9%で最も多くなっています。
- 次いで「3人」が(25.1%)、「1人」が(3.4%)で、「わからない」は(9.0%)となっています。
- 人数を回答した人で平均すると、2.29人となっています(「5人以上」は5人、「子どもは持たない」などを除く)。

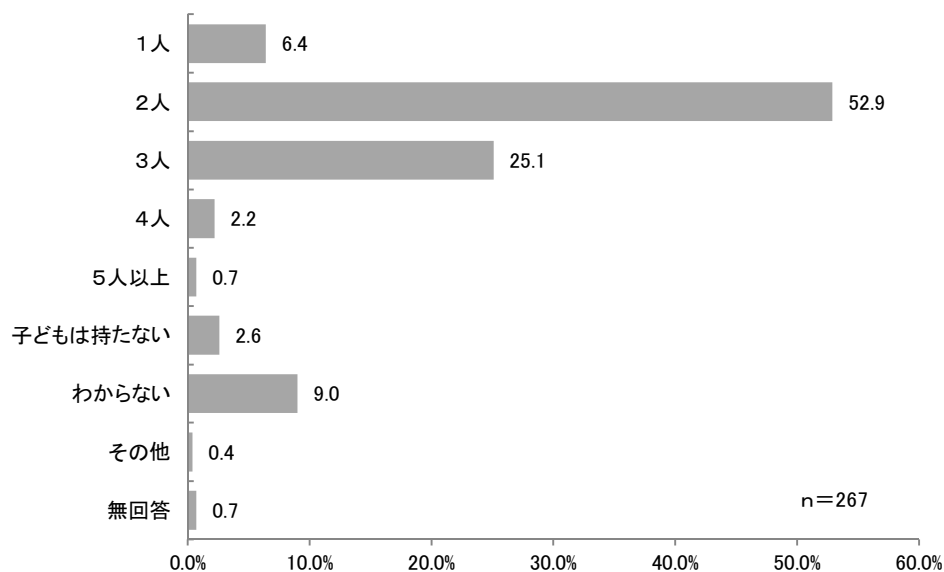
【性別】

- 男性では「1人」(9.7%)と「2人」(59.3%)が女性よりも高く、女性では「3人」が男性よりも高くなっています。
- 平均では、男性が2.15人、女性が2.37人です。

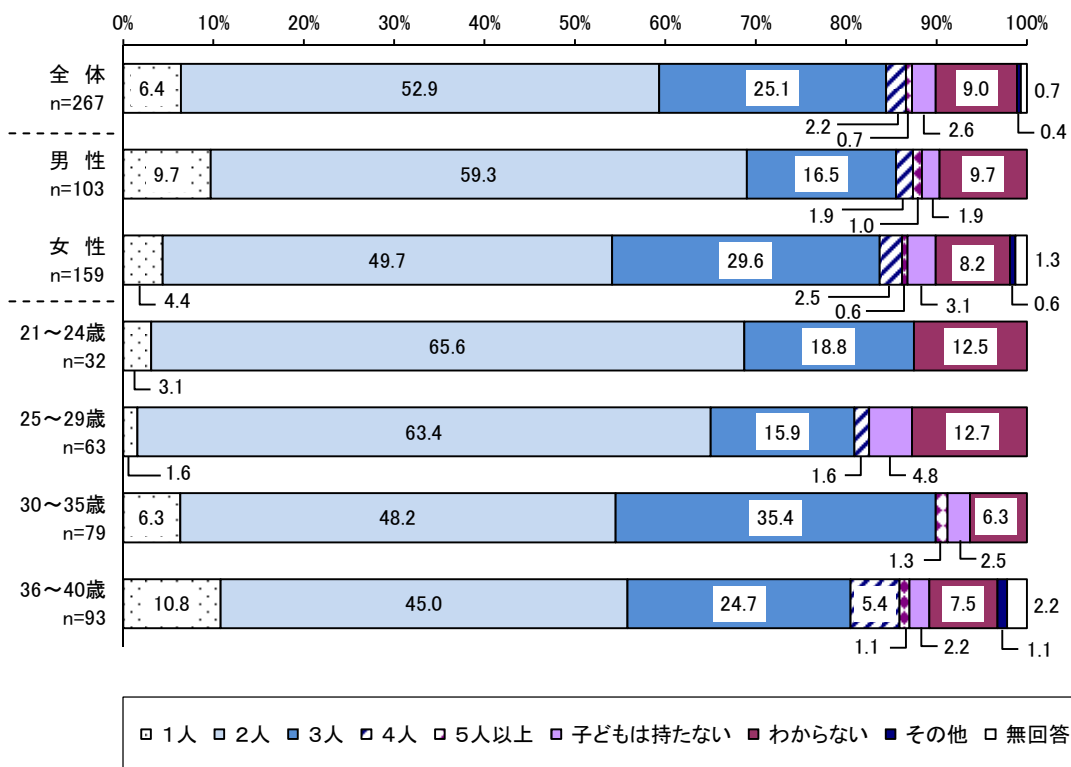
【年齢別】

- 21～29歳では「2人」が60%を超えており、30～35歳では「3人」(35.4%)、36～40歳では「4人」が5.4%とほかの年齢層よりも高くなっています。
- 平均では、21～24歳が2.17人、25～29歳が2.21人、30～35歳が2.36人、36～40歳が2.32人と、30歳以上が多くなっています。

図表 2-5-1 理想的な子どもの人数



図表 2-5-2 理想的な子どもの人数（性別・年齢別）

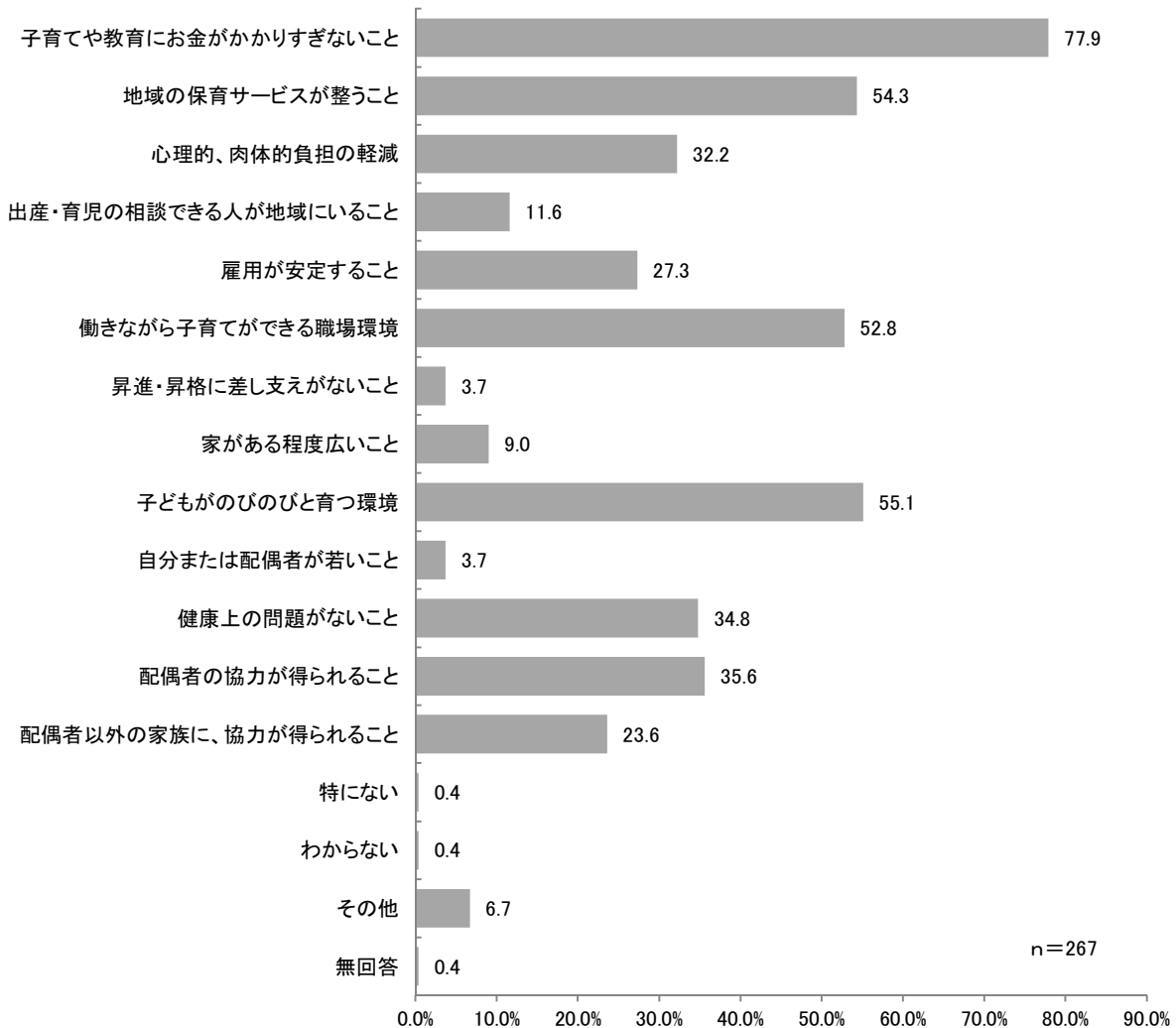


問13 あなたが子どもを持つため、またはもっと持つためには、どのような条件や環境が必要であるとお考えですか。

◆子どもを持つために必要な条件や環境は、金銭的な問題や、子どもが育つ環境、保育サービスや職場環境などがあげられています。

- 「子育てや教育にお金がかかりすぎないこと」が77.9%と圧倒的に高くなっており、次いで「子どもがのびのびと育つ環境であること」(55.1%)と「地域の保育サービス(保育所や一時預かりなど)が整うこと」(54.3%)、「働きながら子育てができる職場環境であること」(52.8%)が並んでいます。
- さらに、「配偶者の家事・育児への協力が得られること」(35.6%)と「健康上の問題がないこと」34.8%、「育児の心理的、肉体的な負担が軽減されること」(32.2%)が30%を超えています。

図表 2-6-1 子どもを持つために必要な条件や環境



【性別】

○男性では「子どもがのびのびと育つ環境であること」(60.2%)と「雇用が安定すること」(34.0%)、「家がある程度広いこと」(113.6%)が女性より高くなっています。

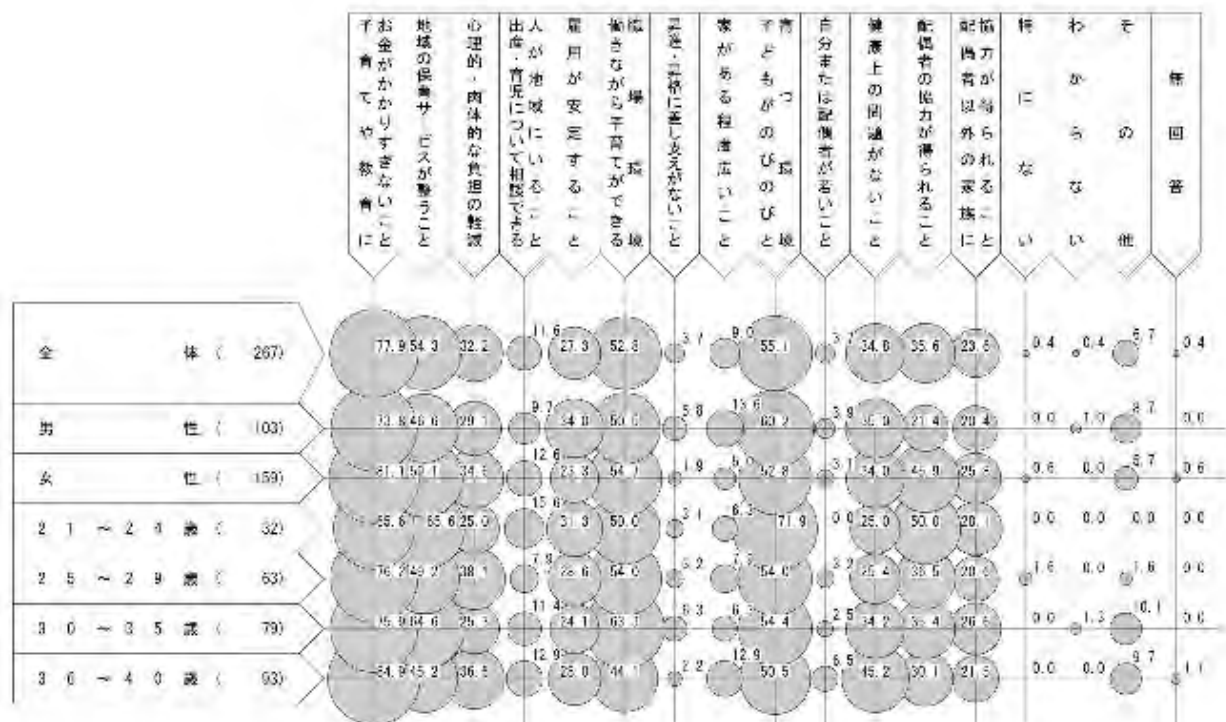
○女性では「子育てや教育にお金がかかりすぎないこと」(81.1%)と、「地域の保育サービス(保育所や一時預かりなど)が整うこと」(59.1%)、「配偶者の協力が得られること」(45.9%)が男性より高く、子育ての支援を求めています。

【年齢別】

○21～24歳では「子どもがのびのびと育つ環境であること」(71.9%)、「雇用が安定すること」(31.3%)などがほかの年齢層と比べて高くなっています。21～24歳と30～35歳で「地域の保育サービス(保育所や一時預かりなど)が整うこと」(約65%)、30～35歳ではさらに「働きながら子育てができる職場環境であること」(63.3%)が高くなっています。

○25歳～29歳では「育児の心理的、肉体的な負担が軽減されること」(28.1%)、36～40歳では「子育てや教育にお金がかかりすぎないこと」(84.9%)や「健康上の問題がないこと」(45.2%)などが高くなっています。

図表 2-6-2 子どもを持つために必要な条件や環境 (性別・年齢別)



○設問でその他の選択した回答者の主な記述

子どもの医療費の負担軽減。中学生まで医療無料化。(※7人)
もっと金がかせげること
安定した、子どもに不自由させない収入
自分自身が自己啓発に積極的で、自己成長に貪欲なこと。
専業主婦で子供に100%専念できる環境
働かなくても育児できること。
治安が悪い(族が多い)、警察のパトロールの強化。
治安が良い。小学校、中学校がキレイなこと。不良がない。

第3章 子育てについて

1. 現在の子どもの人数

問 14 子どもの数は何人ですか。(子どもをお持ちの 134 人を対象)

◆現在の子どもの人数は「2人」が 44.8%最も多く、次いで「1人」で、平均で 1.82 人となっています。

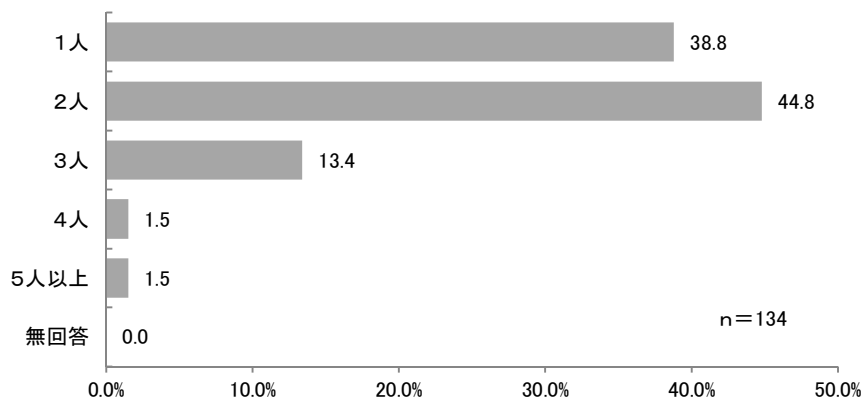
○現在の子どもの人数については、「2人」が 44.8%で最も多く、次いで「1人」(38.8%)、「3人」(13.4%)、「4人」と「5人以上」(1.5%)となっています。

○なお、平均の子どもの人数は 1.82 人となっており、問 12 の欲しいと思う理想の子どもの人数の 2.29 人よりも、0.5 人近く少なくなっています。

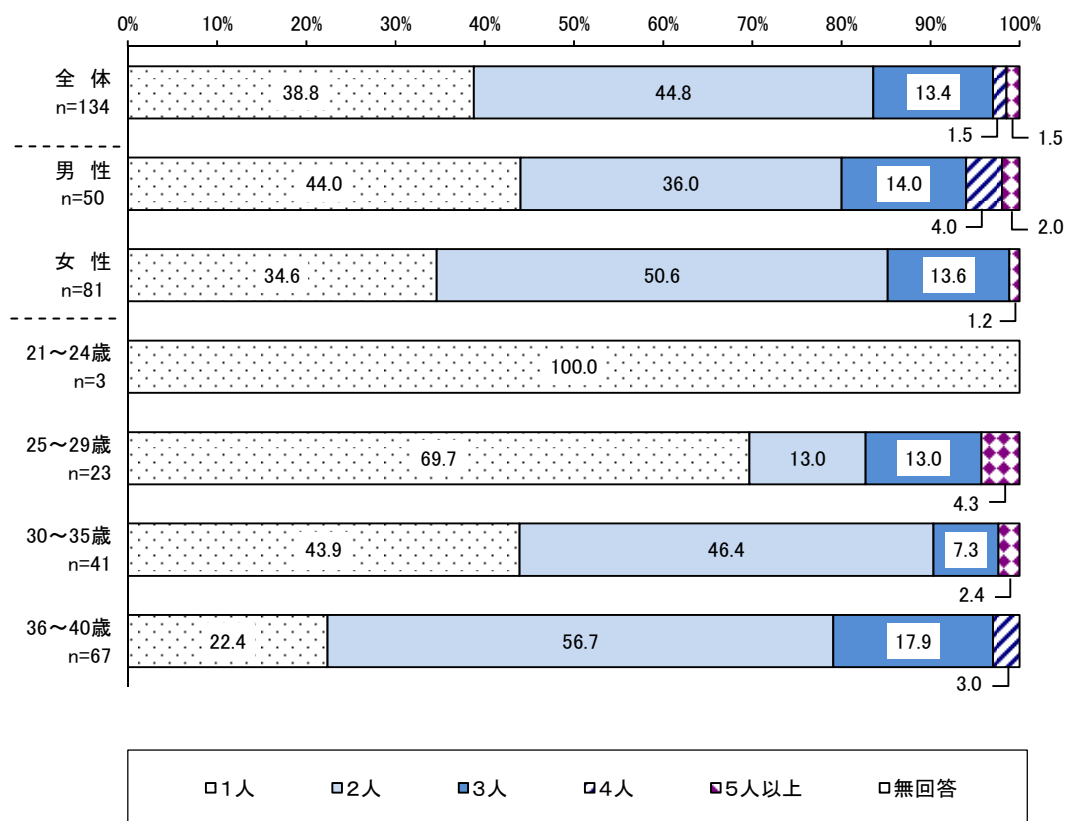
【年齢別】

○回答者数が少ないですが、年齢層が高くなるにしたがって「2人」が高くなっています。

図表 3-1-1 現在の子ども数



図表 3-1-2 現在の子ども数（性別・年齢別）



2. 子どもの年齢

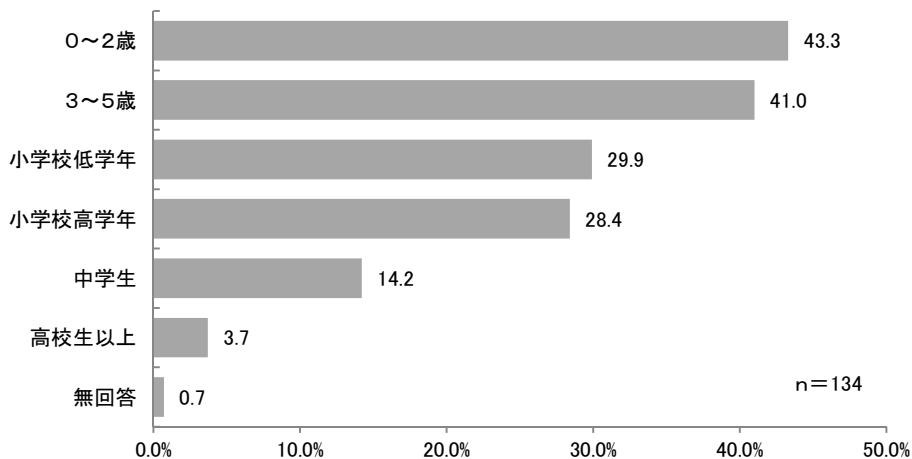
【あてはまるものすべての複数回答】

問 15 子どもは今年の4月で何歳になりましたか、または、小学生以上ですか。(子どもをお持ちの方 134 人を対象)

◆子どもの年齢は、5歳までの割合が高く、次いで小学生が高くなっています。

- 子どもの年齢については、「0～2歳」(43.3%)と「3～5歳」(41.0%)が高くなっています。
- 次いで「小学校1～3年」(29.9%)と「小学校高学年」(28.4%)が並び、「中学生」が14.2%、「高校生以上」が3.7%となっています。

図表 3-2-1 子どもの年齢



3. 保育園や幼稚園の入園状況

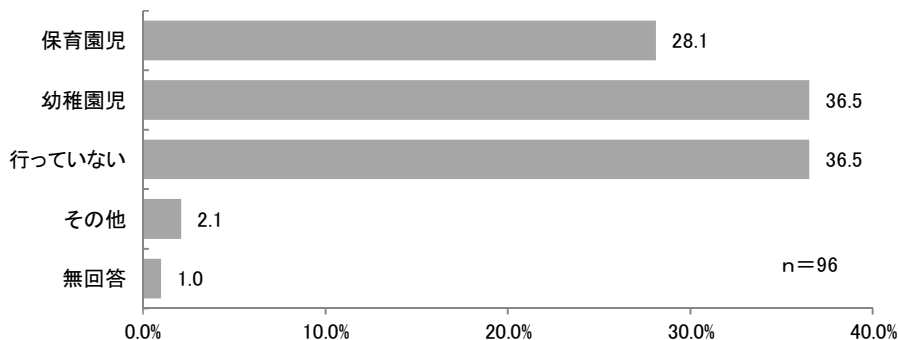
【あてはまるものすべての複数回答】

問 16 保育園や幼稚園に入園していますか。(小学生未満の子どもをお持ちの 96 人を対象)

◆未就園児について、「保育園児」が半数以上を占めています。

- 小学生未満の子どもを持つと 96 名の子どもの保育園や幼稚園の入園状況については、「幼稚園児」が36.5%、「保育園児」28.1%と幼稚園の割合が高く、「行っていない」も36.5%見られます。

図表 3-3-1 保育園や幼稚園の入園状況



4. 配偶者の就労状況

問 17 配偶者の方は就労していますか。(配偶者をお持ちの方 130 名を対象)

◆配偶者の就労状況については、「正規職員」が 60%強で、非正規、非就労がそれぞれ約 15%です。

○配偶者の就労状況については、「正規職員」が 61.6%と最も多くなっています。

○「非正規職員（パート、アルバイト含む）」が 15.4%、「自営である」が 6.9%で、「就労していない」が 14.6%です。

【性別】

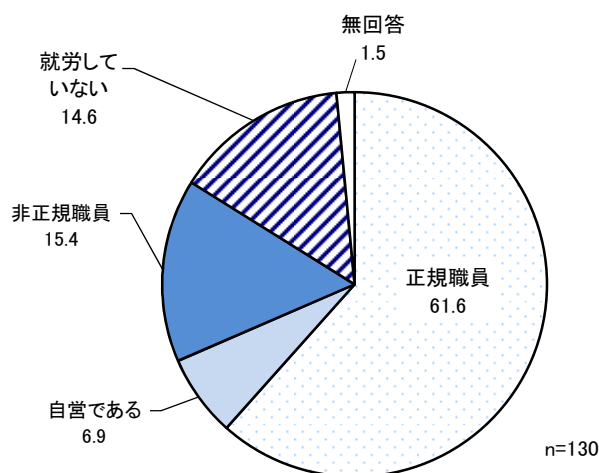
○男性では妻が「非正規職員」（36.0%）と「就労していない」（36.0%）と高くなっています。

○女性では夫が「正規職員」が 85.7%です。

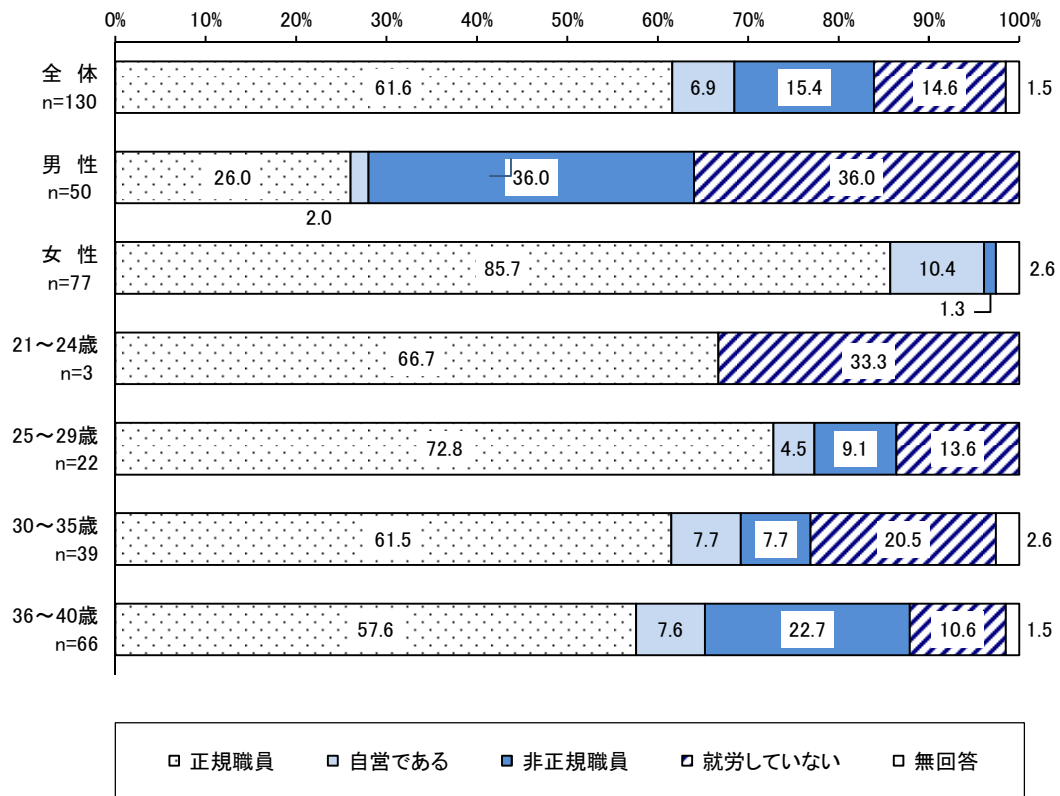
【年齢別】

○30～35 歳で「就労していない」が 20.5%で他の年齢層より高く、36～40 歳になると「非正規職員」が 22.7%と高くなっています。

図表 3-4-1 配偶者の就労状況



図表 3-4-2 配偶者の就労状況（性別・年齢別）



問 18 家庭での育児や家事は、どのような役割分担で行っていますか。(子どもをお持ちの方 134 人を対象)

◆家庭での育児や家事の分担については、「基本的に妻の役割で夫は手伝う程度」が 73.1%で最も高くなっています。

○育児や家事の分担については、「基本的に妻の役割で、夫は手伝う程度」が 73.1%で最も割合が高くなっています。

○「妻の役割である」と「妻も夫も同様に行う」がそれぞれ 14.2%、「親に手伝ってもらっている(同居していない場合も含む)」が 11.9%となっています。

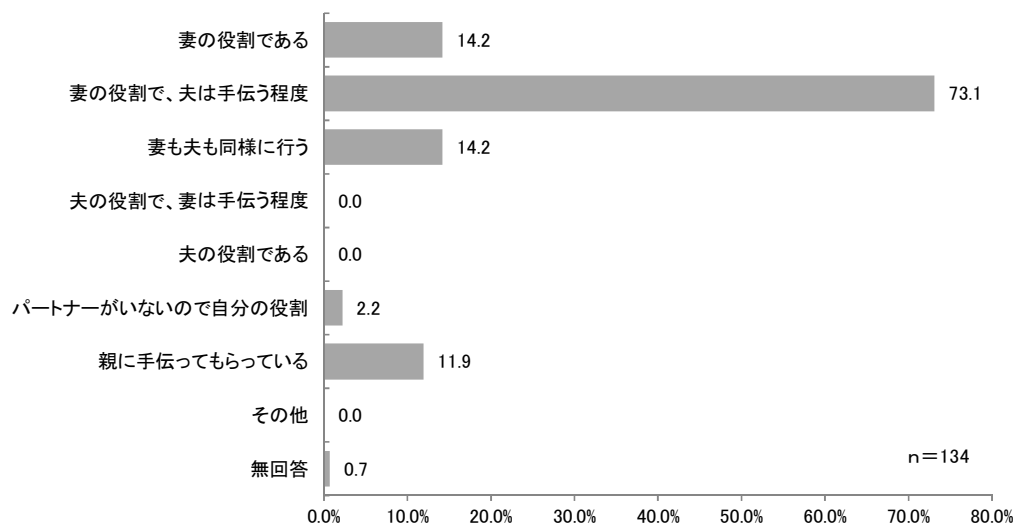
【性別】

○男性では「妻の役割で夫は手伝う程度」が 84.0%と高く、女性では「妻の役割である」が男性より高くなっています。

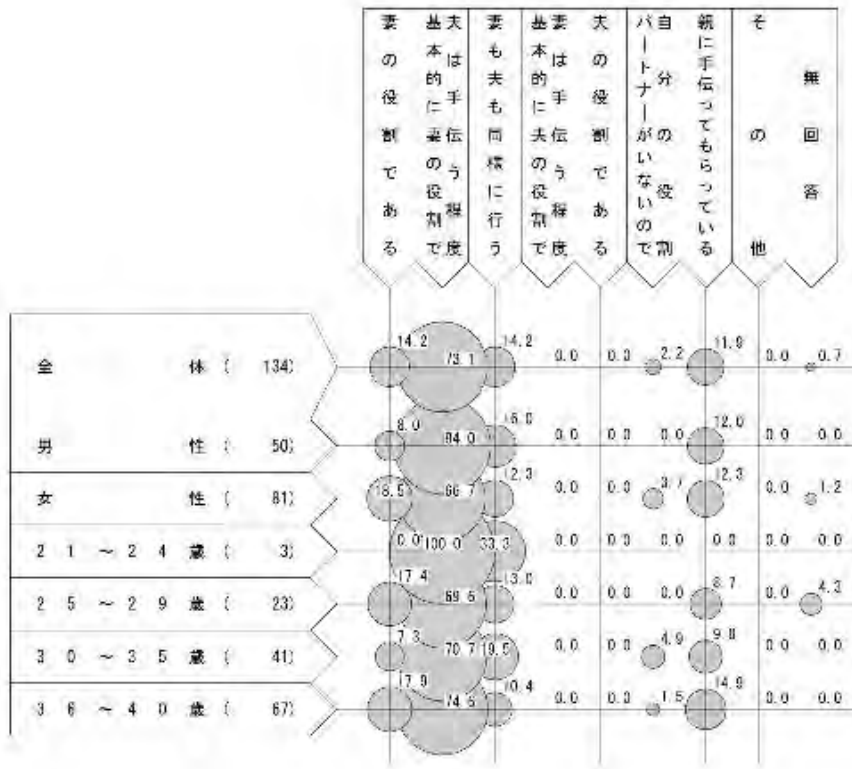
【年齢別】

○36～40歳で「妻の役割である」と「親に手伝ってもらっている」が 14.9%と、他の年齢層よりも高くなっています。

図表 3-5-1 家庭での育児・家事の役割分担



図表 3-5-2 家庭での育児・家事の役割分担（性別・年齢別）



6. 子育てにおける周りの支えの重要度

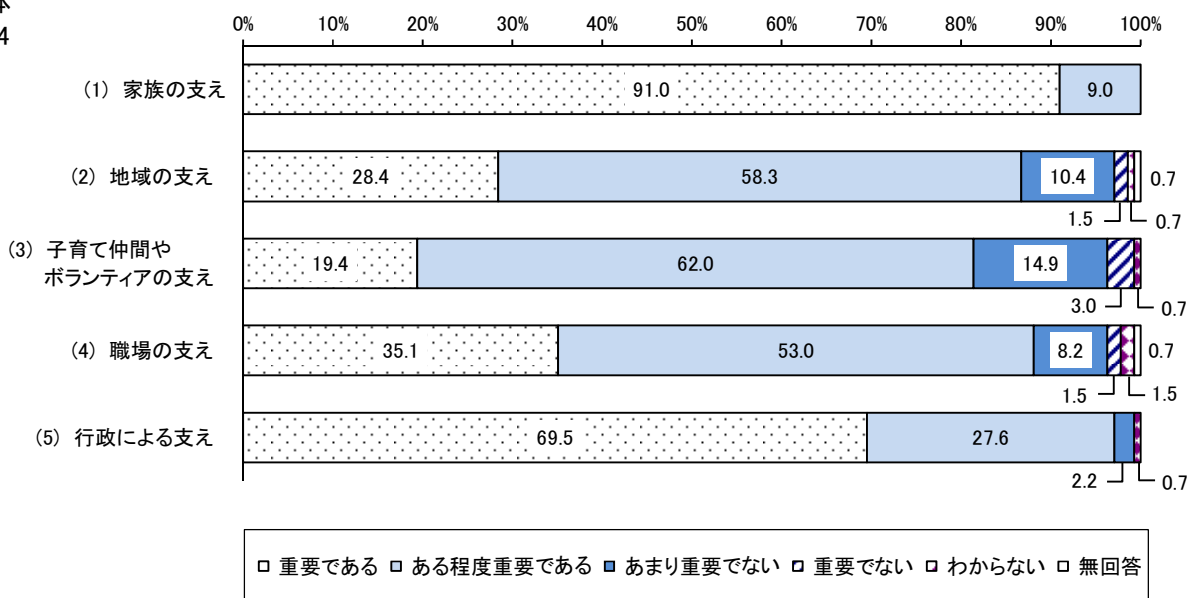
問 19 あなたは、子育てをする人にとって、周りの支えが重要であると思いますか。
 (1)～(5)のそれぞれについてお答えください。(子どもをお持ちの134名を対象)

◆子育てにおける周りの支えとして重要度が高いのは、《家庭》⇒《行政》⇒《職場》⇒《地域》⇒《子育て仲間やボランティア》の順になっています。

- 《家族の支え》については、「重要である」が91.0%、「まあまあ重要である」が9.0%で、これらをあわせた重要度は100.0%と全ての回答者となっています。
- 《地域の支え》については、「重要である」が28.4%、「まあまあ重要である」が58.3%で、重要度は86.7%となっています。
- 《子育て仲間やボランティアの支え》については、「重要である」が19.4%、「まあまあ重要である」が62.0%で、重要度は81.4%となっています。
- 《職場の支え》については、「重要である」が35.1%、「まあまあ重要である」が53.0%で、これ重要度は88.1%となっています。
- 行政による支えについては、「重要である」が69.5%、「まあまあ重要である」が27.6%で、これ重要度は97.1%となっています。
- このように、子育てするにあたっての周りの支えとして重要度が高いのは、《家庭》⇒《行政》⇒《職場》⇒《地域》⇒《子育て仲間やボランティア》の順になっています。

図表 3-6-1 子育てにおける周りの支えの重要度

全体
n=134

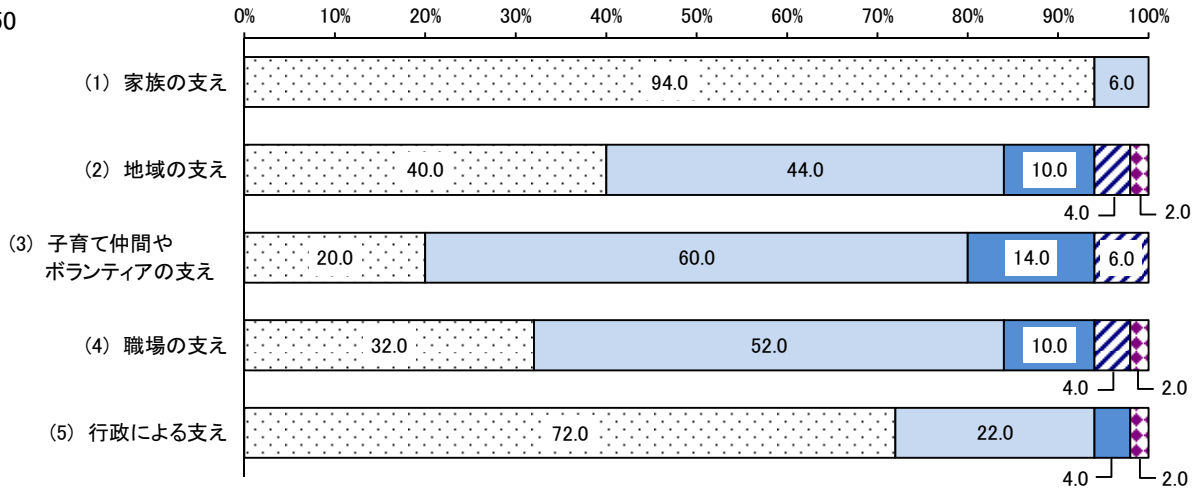


【性別】

○男性で《家族の支え》が「重要である」が94.0%、《地域の支え》が「重要である」が40.0%と女性よりも高くなっています。

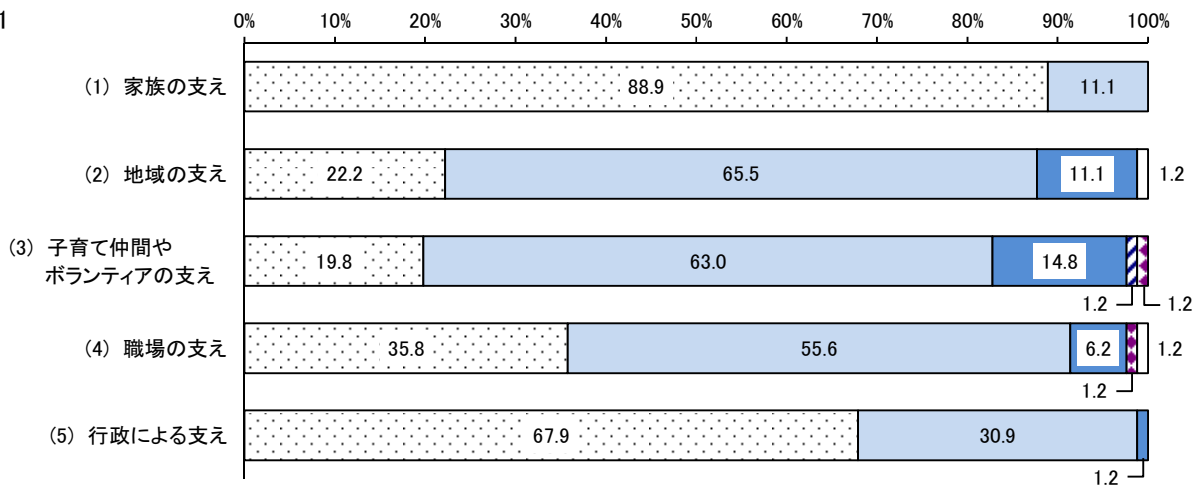
図表 3-6-2 子育てにおける周りの支えの重要度（性別・年齢別）

男性
n=50



□ 重要である □ ある程度重要である ■ あまり重要でない ■ 重要でない ■ わからない □ 無回答

女性
n=81



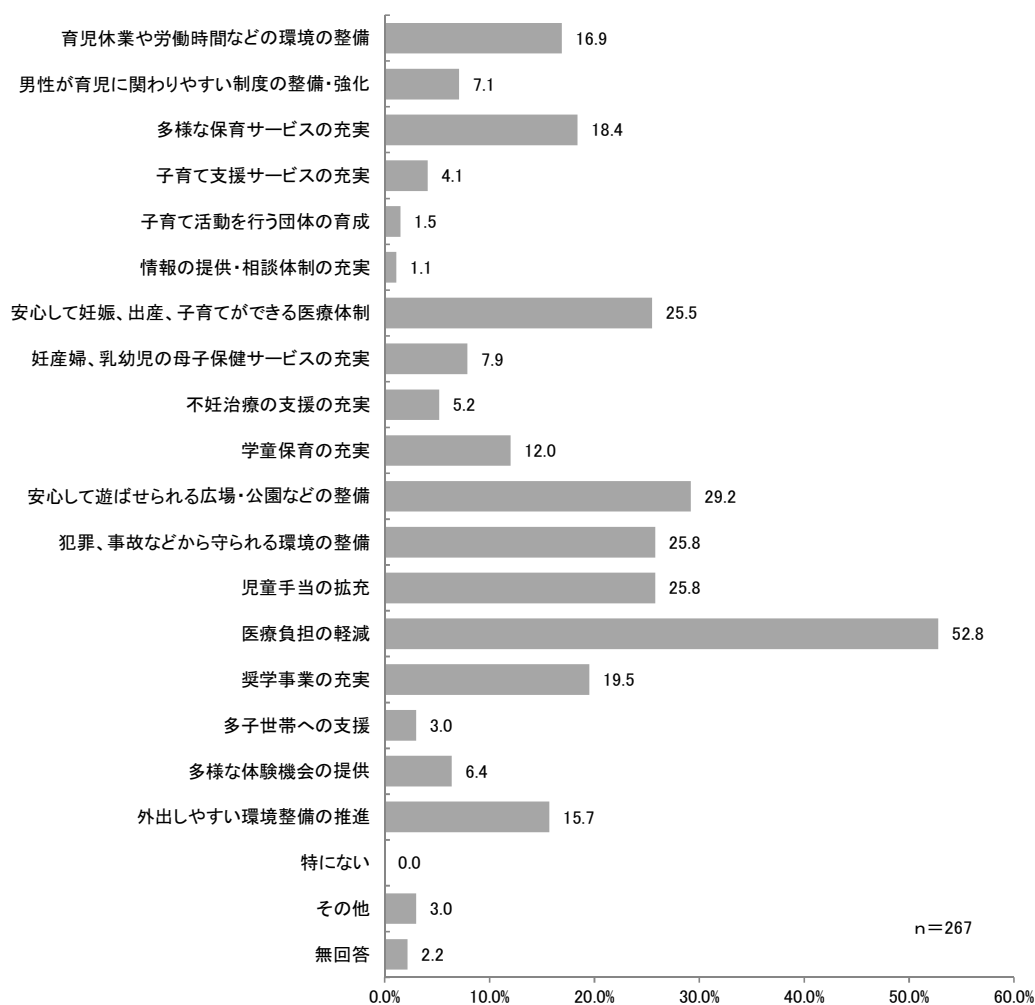
□ 重要である □ ある程度重要である ■ あまり重要でない ■ 重要でない □ わからない □ 無回答

問 20 あなたは、あなたは、子どもを生み育てやすい環境を整えるために、津島市がどのようなことに力を入れるべきだと思いますか。

◆**出産や育児に対して、経済的支援が強く求められており、公園等の整備、医療体制、奨学金、保育サービスなどが求められています。**

- 出産や育児などに対して、津島市が力を入れるべきこととしては、「子どもの医療にかかる負担の軽減」が52.8%と圧倒的に高い割合になっています。
- 次いで、「安心して子どもを遊ばせることができる広場・公園などの整備」(29.2%)、「児童手当の拡充」(25.8%)、「安心して妊娠、出産、子育てができる医療体制」(25.5%)が25%を超えています。
- 「授業料の助成などの奨学事業の充実」(19.5%)と「乳児保育や一時保育、病児・病後児保育など多様な保育サービスの充実」(18.4%)が20%弱です。

図表 3-7-1 出産・育児の支援策



【性別】

○男性で「子どもが犯罪、交通事故などから守られる地域環境の整備」と「児童手当の拡充」が30%強で女性より高くなっています。

○女性で「乳児保育や一時保育、病児・病後児保育など多様な保育サービスの充実」が24.5%で、男性より高くなっています。

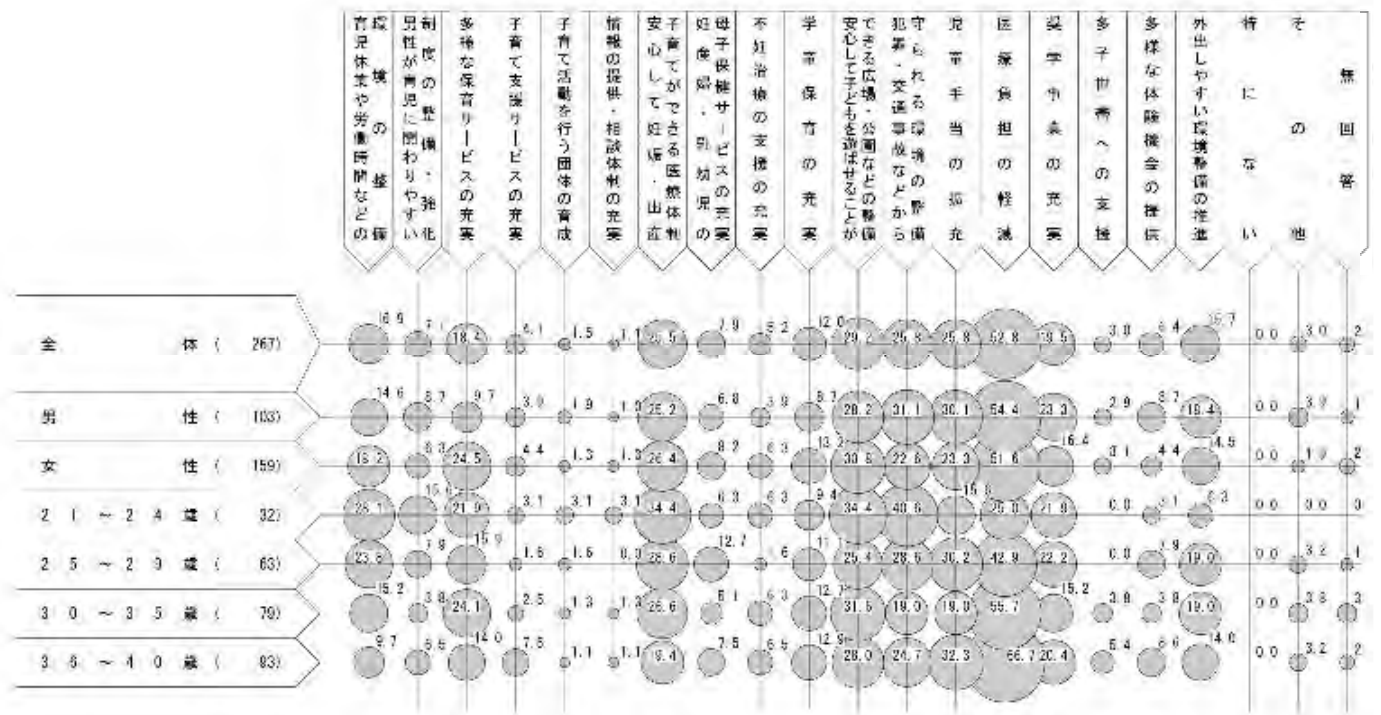
【年齢別】

○21～24歳で「子どもが犯罪、交通事故などから守られる地域環境の整備」(40.6%)、「安心して子どもを遊ばせることができる広場・公園などの整備」と「安心して妊娠、出産、子育てができる医療体制」(34.4%)などが、他の年齢層よりも高くなっています。また、21～29歳で見ると「育児休業や労働時間短縮など子育てしながら働き続ける環境の整備」が20%以上と高くなっています。

○25～29歳では「児童手当の拡充」(30.2%)も高く、25～35歳では「子連れで外出しやすい施設やまちな環境整備の推進」が19.0%で高くなっています。

○36～40歳では「子どもの医療にかかる負担の軽減」(66.7%)と「児童手当の拡充」(32.3%)が高くなっています。

図表 3-7-2 出産・育児の支援策（性別・年齢別）



第4章 津島市に住むことについて

1. 津島市の住みやすさ

問 21 あなたは、津島市は住みやすいと思いますか。

◆住みやすいという評価が約 45%で、住みにくいが約 35%となっており、住みやす
いが 10%しか高くなく、住みやすいまちづくりが課題と考えられます。

○津島市の住みやすさについて、「住みやすい」が 10.9%、「どちらかといえば住みやすい」が 34.4%
となっており、あわせて約 45%が『住みやすい』と感じています。

○一方、「どちらかといえば住みにくい」が 19.1%、「住みにくい」が 15.4%となっており、あわせ
て約 35%が『住みにくい』と感じています。

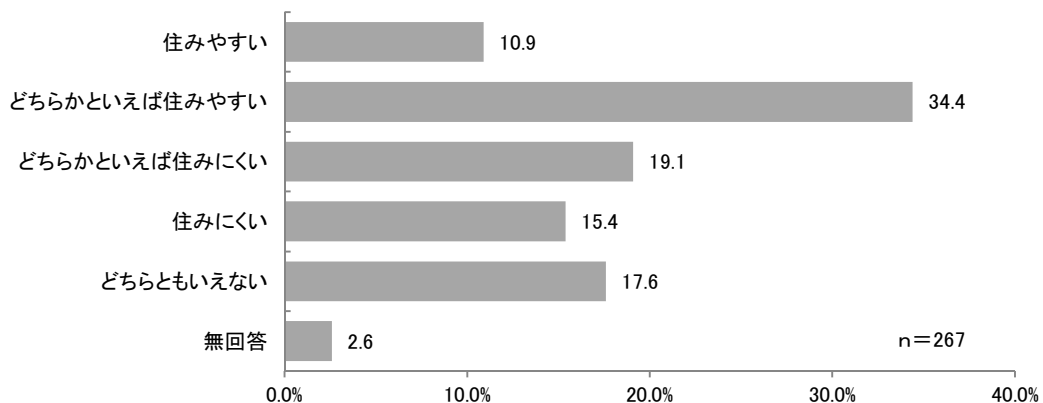
【性別】

○男性では『住みやすい』が約 52%、女性では約 42%と、男性の方が 10 ポイント高くなってい
ます。

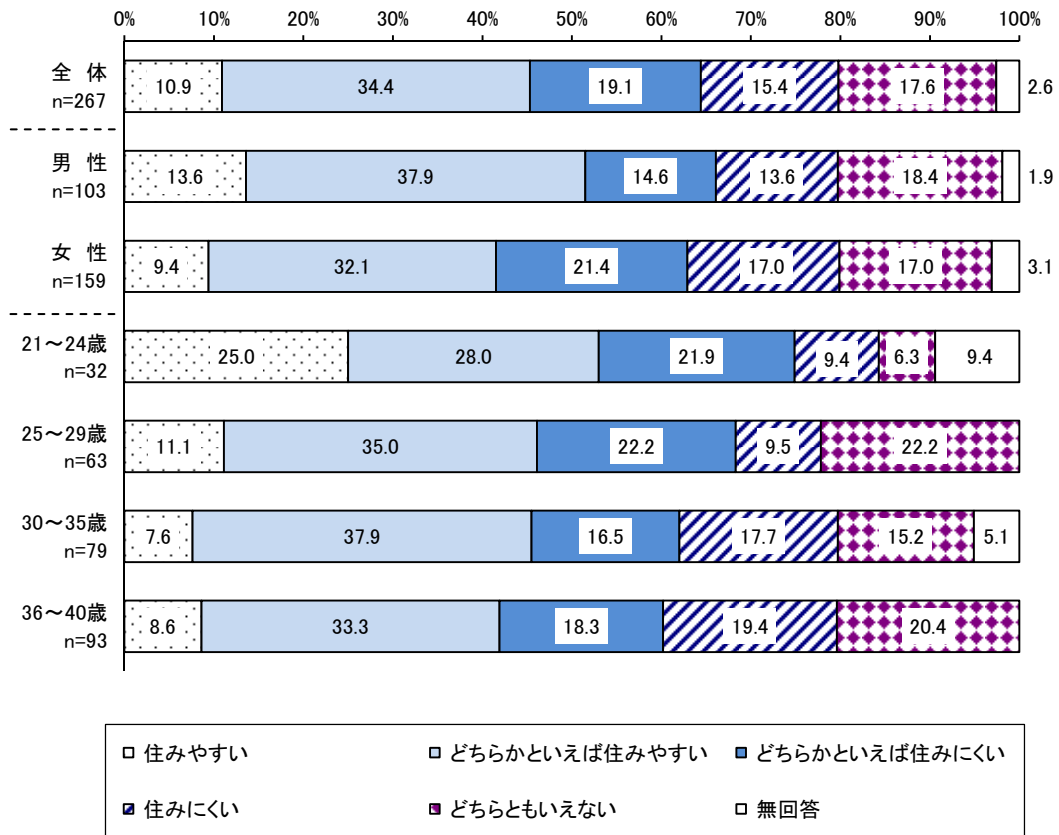
【年齢別】

○年齢が上がるにしたがって『住みやすい』が低くなる傾向があります。

図表 4-1-1 津島市の住みやすさ



図表 4-1-2 津島市の住みやすさ（性別・年齢別）



2. 住宅の種類

問 22 あなたが、お住まいの住宅の種類についてお答えください。

◆住んでいる住宅の種類については、一戸建ての持ち家が約 70%、民間分譲が 10% 弱、民間賃貸が約 15% です。

○住宅の種類については、「一戸建ての持ち家（実家・親の家）」（35.3%）と「一戸建て（あなたまたは配偶者の所有）」（33.3%）が、あわせて『一戸建ての持ち家』に住んでいるのは約 69% となっています。

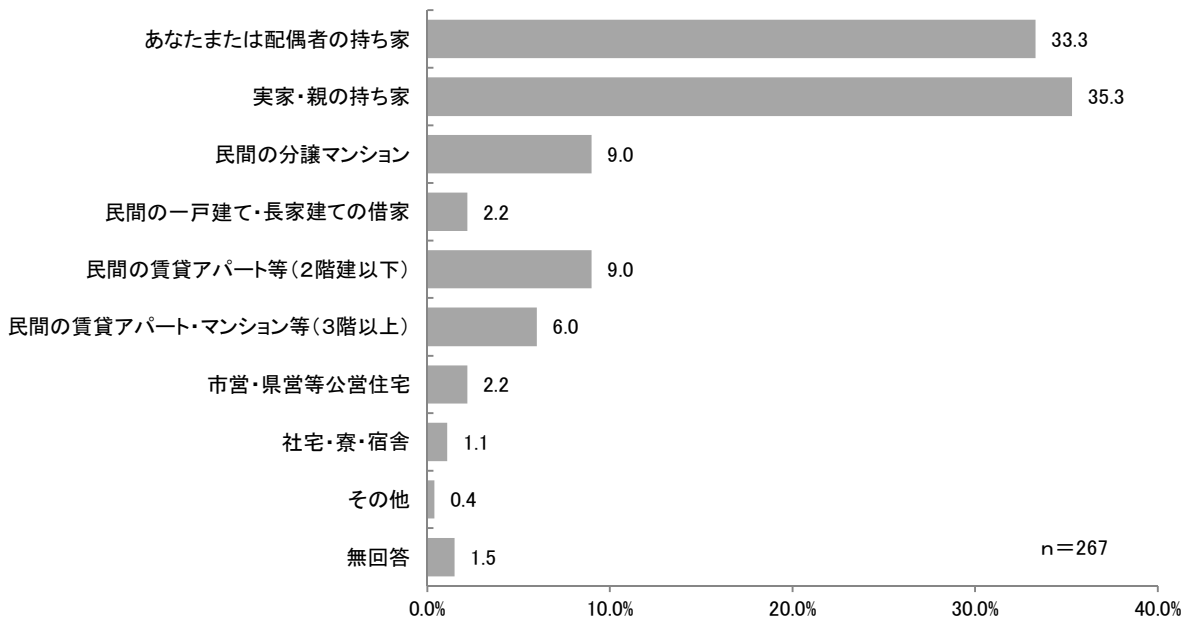
○「民間の賃貸アパート（建物が2階以下）」（9.6%）、「民間の賃貸アパート・マンション等（建物が3階以上）」（6.0%）という『民間賃貸住宅』は約 15%、「民間の分譲マンション」は 9.0% です。

【年齢別】

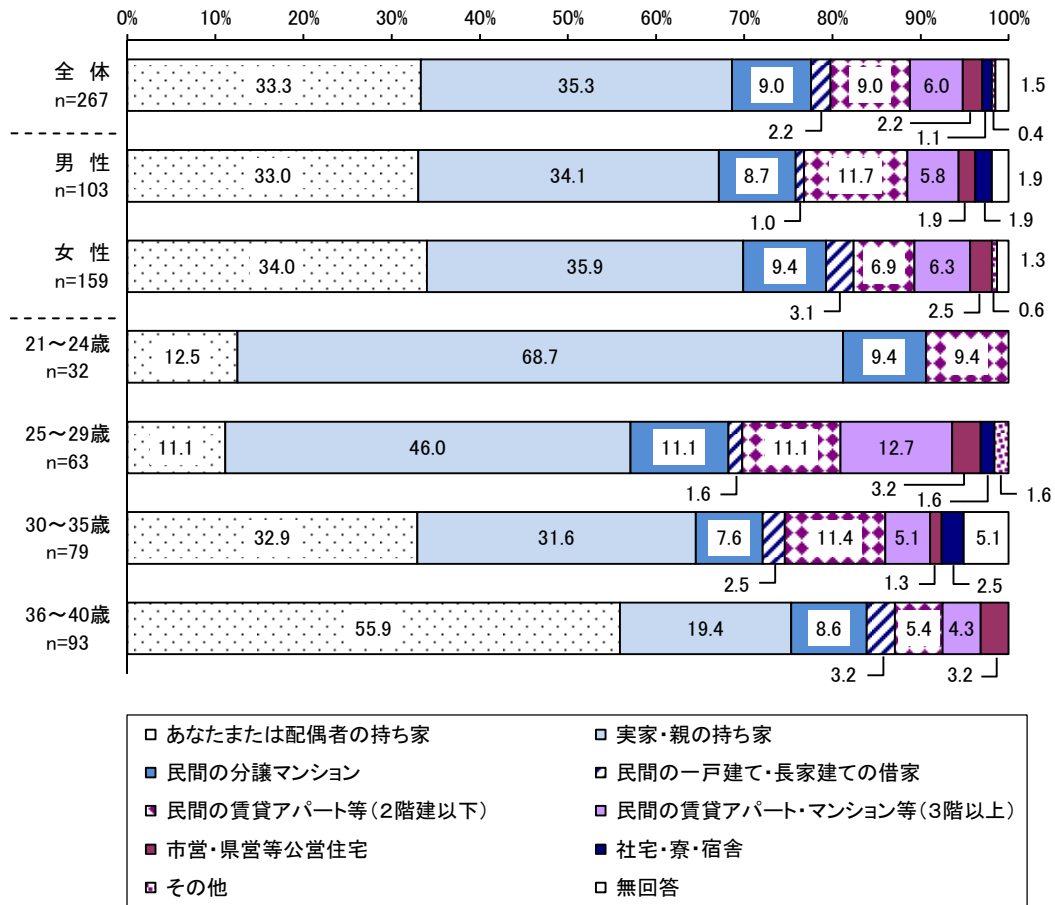
○年齢が高くなるにしたがって、「実家・親の持ち家」の割合が低くなり、25歳以上では「あなたまたは配偶者の持ち家」の割合が高くなっています。

○また、25～29歳では、『民間賃貸住宅』が他の年齢層よりも目立っています。

図表 4-2-1 住宅の種類



図表 4-2-2 住宅の種類（性別・年齢別）



3. 居留意向

問 23 あなたは、現在の住宅に今後も住み続けますか、お答えください。

◆現在の住宅については、約 55%が住み続けると考えており、約 32%が住み替えを考えています。

○現在の住宅への今後の居留意向については、「住み続けたい」が 15.7%、「住み続ける予定である」が 23.2%、「住み続けざるを得ない」が 16.5%となっており、あわせて約 55%が現在の住宅に『住み続ける』と考えています。

○一方、「住み替えざるを得ない」が 3.4%、「住み替える予定がある」が 14.6%、「住み替えたい」が 13.9%となっており、あわせて約 32%が『住み替える』と考えています。

【性別】

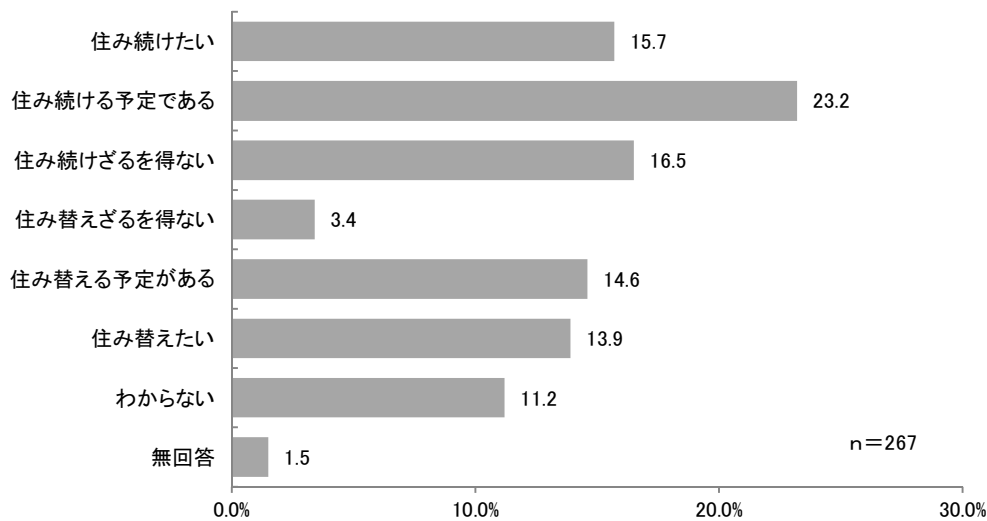
○男性で『住み続ける』が 58.2%と、女性よりやや高くなっています。

【年齢別】

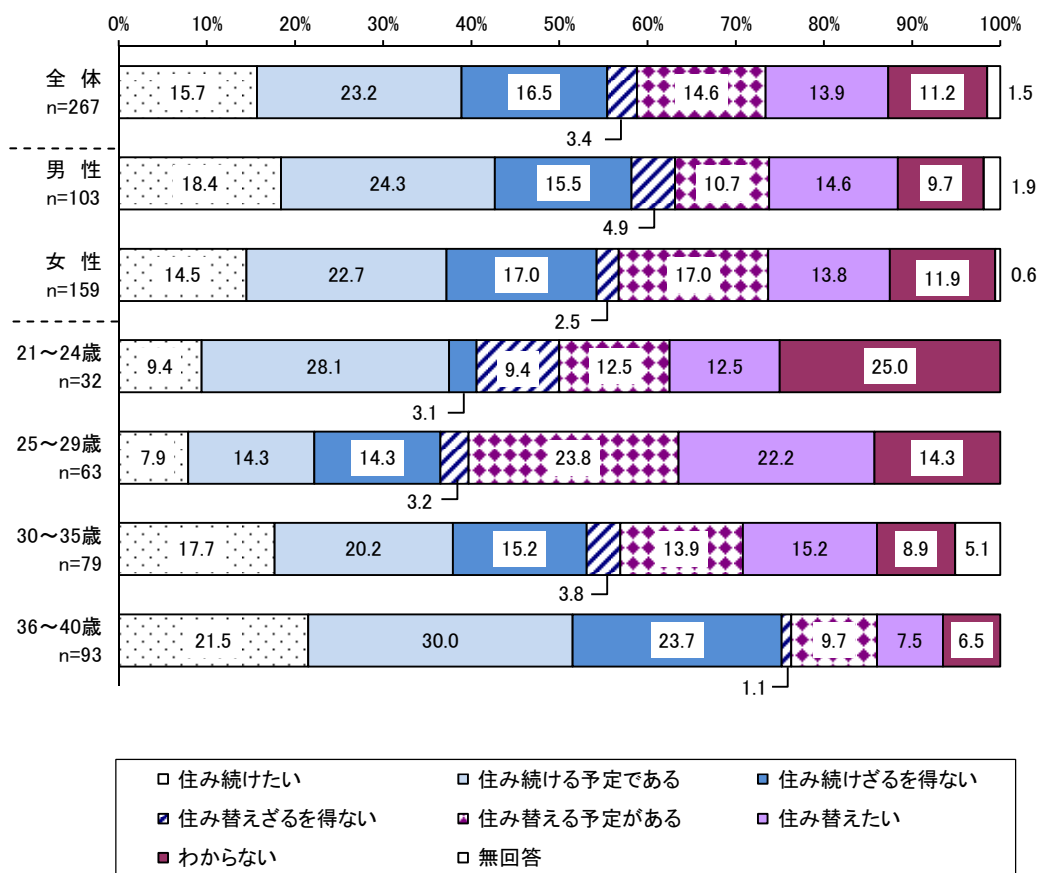
○25 歳以上では年齢が高くなるにしたがって『住み続ける』の割合が高くなっています。

○29 歳以下で『住み替える』の割合が高く、特に 25～29 歳では 50%近くに達しています。

図表 4-3-1 居留意向



図表 4-3-2 居留意向（性別・年齢別）



4. 住み続ける理由

【あてはまるものすべての複数回答】

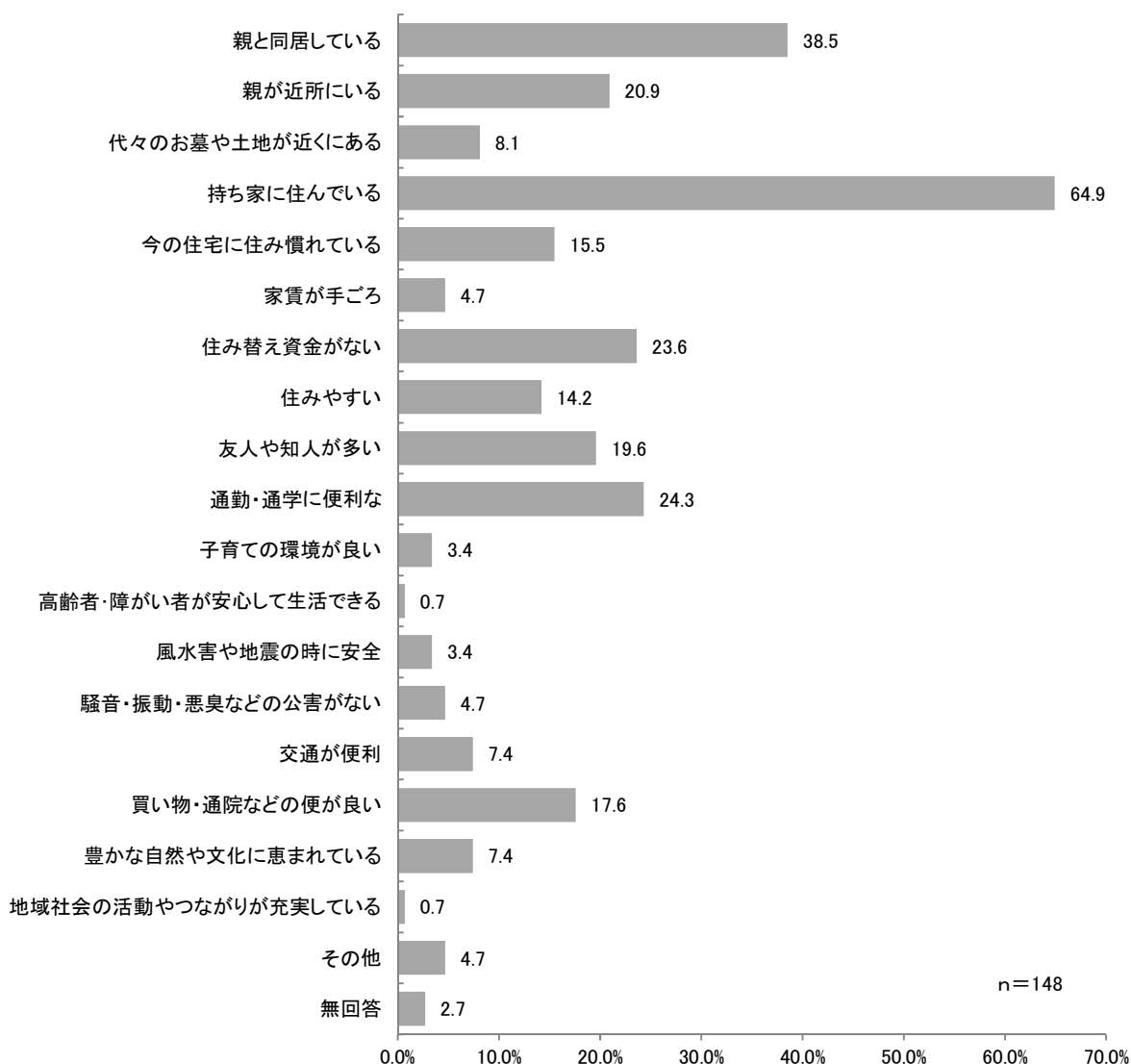
問 24 住み続けたい理由又は、住み続けざるを得ない理由をお教えてください。(問 23 で 1～3 を回答した 148 人を対象)

◆住み続ける理由については、「持ち家で住んでいるため」が約 65%で圧倒的に高く、親と同居や近居、友人・知人がいること、通勤・通学や買い物・通院に便利、住み替え資金がないことなどをあげています。

○前問で現在の住宅に住み続けると回答した 148 人の住み続けたい理由、または住み続けざるを得ない理由については、「持ち家で住んでいるため」が 64.9%で圧倒的に高くなっています。

○次いで「親と同居しているため」(38.5%)、「通勤・通学に便利なため」(24.3%)、「住み替え資金がないため」(23.6%)、「親が近所にいるため」(20.9%)、「友人や知人が近所にいるため」(19.6%)、「買い物・通院などの便が良いため」(17.6%)、「今の住宅に住み慣れている」(15.5%)と高くなっています。持ち家であることや、親と同居や近居、友人・知人がいること、通勤・通学や買い物・通院に便利、住み替え資金がないことなどを理由としてあげています。

図表 4-4-1 住み続ける理由



○前問で現在の住宅に住み続けると回答した 148 人の住み続けたい理由、または住み続けざるを得ない理由については、「持ち家で住んでいるため」が 64.9%で圧倒的に高くなっています。

○次いで「親と同居しているため」(38.5%)、「通勤・通学に便利なため」(24.3%)、「住み替え資金がないため」(23.6%)、「親が近所にいるため」(20.9%)、「友人や知人が近所にいるため」(19.6%)、「買い物・通院などの便が良いため」(17.6%)、「今の住宅に住みなれている」(15.5%)と高くなっています。持ち家であることや、親と同居や近居、友人・知人がいること、通勤・通学や買い物・通院に便利、住み替え資金がないことなどを理由としてあげています。

【性別】

○男性で「持ち家に住んでいるため」(68.3%)、「親と同居しているため」(45.0%)、「通勤・通学に便利なため」(38.3%)が女性よりも高くなっています。

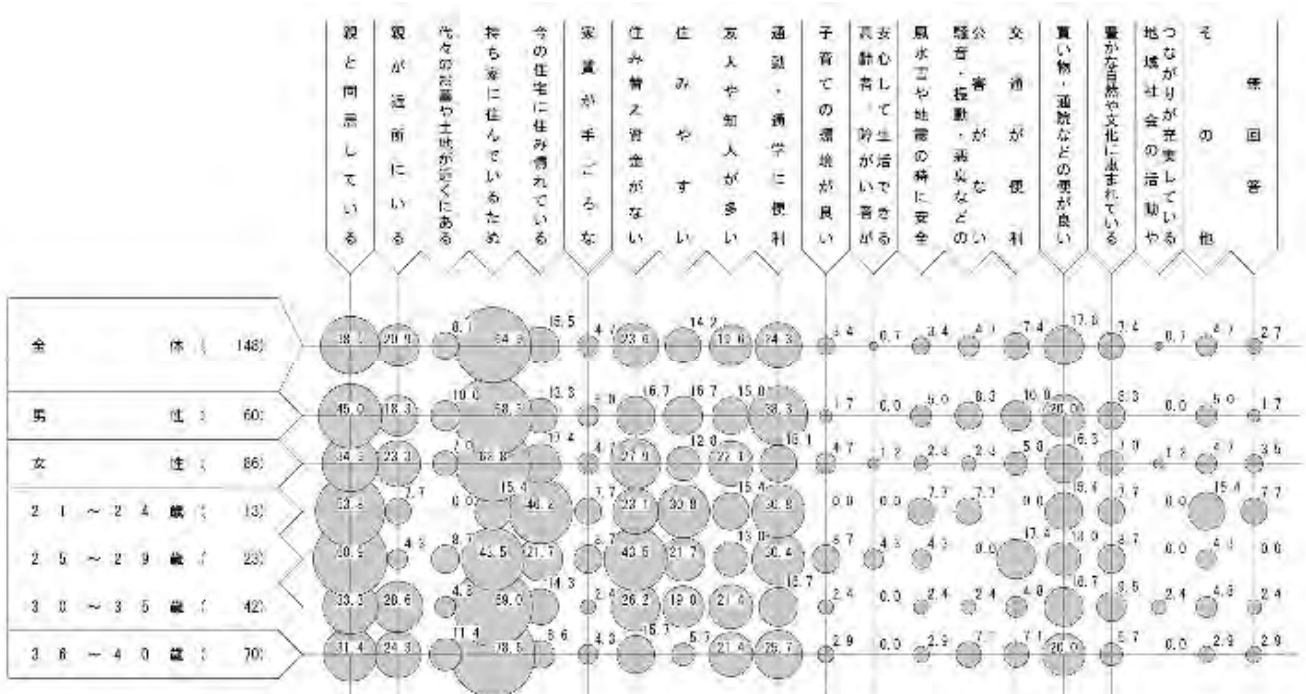
○女性で「住み替え資金がないため」が 27.9%と男性よりも高くなっています。

【年齢別】

○30 歳以上で「持ち家に住んでいるため」(69%以上)、「親が近所にいるため」(24%以上)が他の年齢層よりも高く、30～35 歳では「住みやすいため」(19.0%)、36～40 歳では「代々のお墓や土地が近くになるため」(11.4%)も高くなっています。

○30 歳以下では「親と同居しているため」(53%以上)と「今の住宅に住み慣れているため」(21～24 歳で 46.2%)、「通勤・通学に便利なため」(30%以上)、「住みやすい」(21～24 歳で 30.8%)が他の年齢層よりも高く、25～29 歳では「住み替え資金がないため」(43.5%)なども高くなっています。

図表 4-4-2 住み続ける理由（性別・年齢別）



5. 住み替えたい理由

【あてはまるものすべての複数回答】

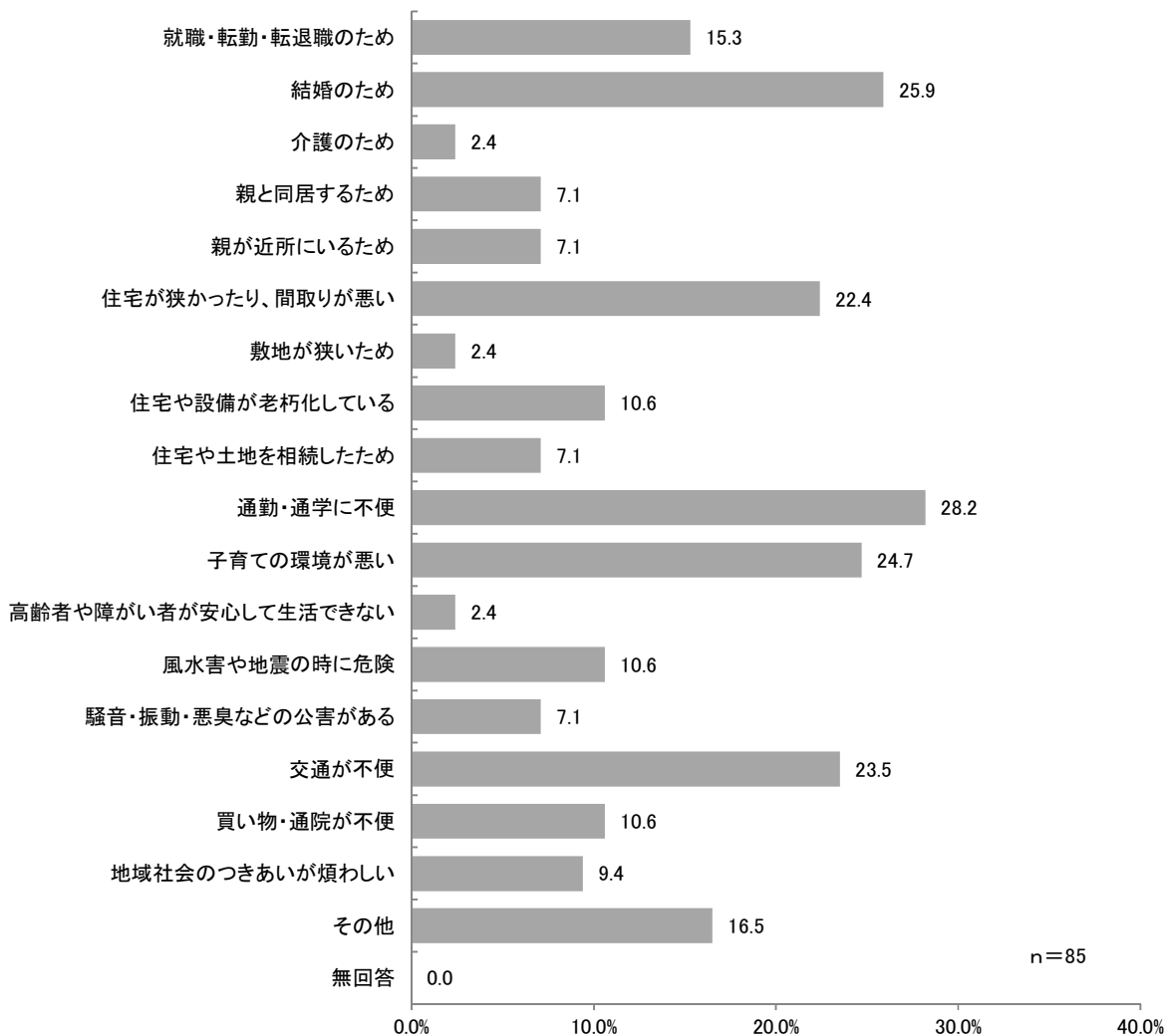
問 25 住み替えたい理由を教えてください。(問 23 で4～6を回答した 85 名対象)

◆住み替えたい理由については、通勤・通学や交通の問題をはじめ、結婚、子育て環境の悪さ、住宅の広さ、仕事の関係などをあげています。

○問 23 で現在の住宅から住み替えたいと回答した 85 人の住み替えたい理由については、「通勤・通学に不便なため」(28.2%)と「結婚のため」(25.9%)、「子育て環境が悪いため」(24.7%)、「交通が不便なため」(23.5%)、「住宅が狭かったり、間取りが悪いため」(22.4%)に回答が集まっています。

○通勤・通学や交通の問題、結婚、子育て環境の悪さ、住宅の広さ、仕事の関係などを理由にあげています。

図表 4-5-1 住み替えたい理由



【性別】

○回答数が少ないですが、男性では「住宅が狭かったり、間取りが悪いため」(25.8%)などが女性よりも高くなっています。

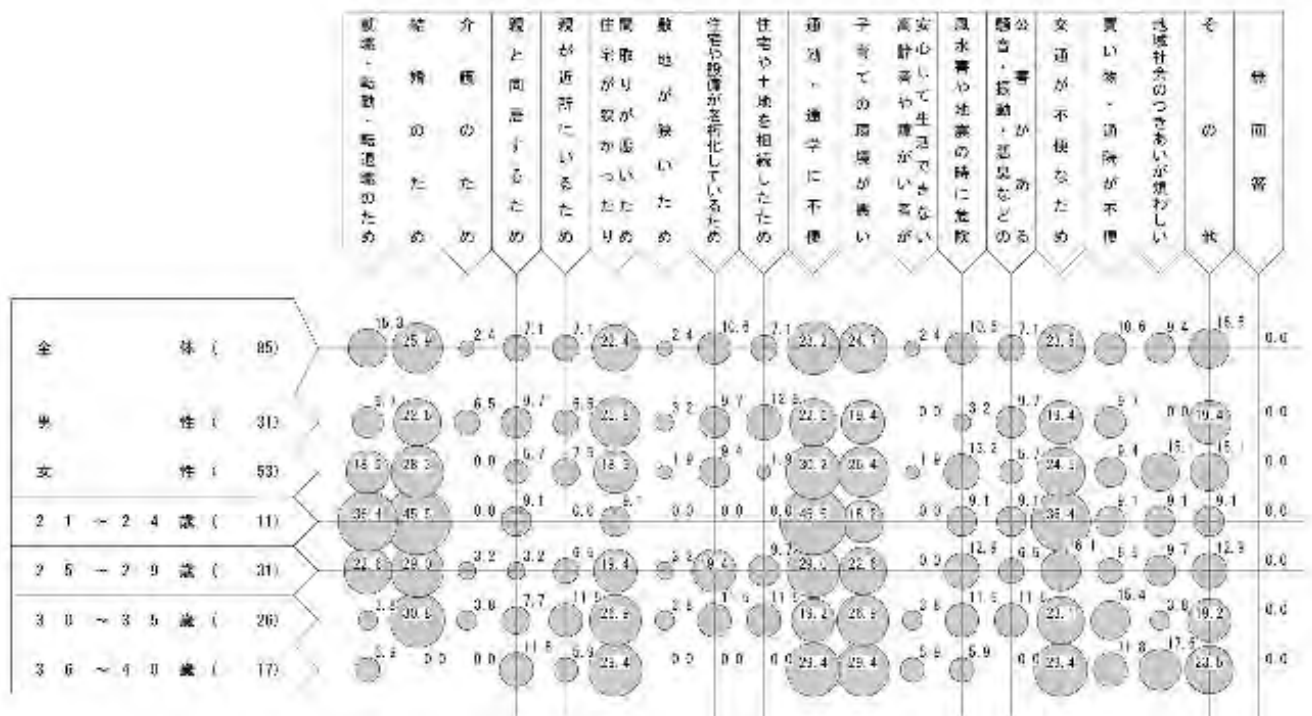
○女性では「就職・転勤・転退職のため」(18.9%)などが男性よりも高くなっています。

【年齢別】

○21～24歳で「通勤・通学に不便なため」(45.5%)が、他の年齢層よりも高くなっています。

○30歳以上では「住宅が狭かったり、間取りが悪いため」(26%以上)などが高くなっています。

図表 4-5-2 住み替えたい理由（性別・年齢別）



6. 住み替えたい地域

【あてはまるものすべての複数回答】

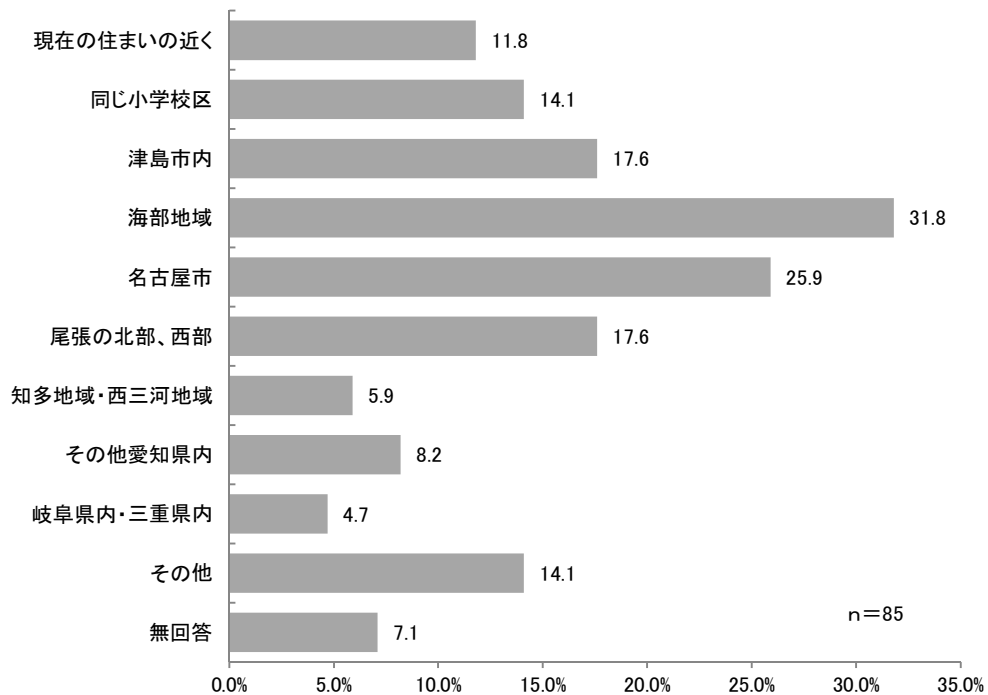
問 26 住み替える・住み替えたい地域について、あてはまるもの全て選んで、番号に○印をつけてください。(問 23 で4～6を回答した 85 名対象)

◆住み替えたい地域については、津島市内や海部地域、名古屋市をはじめ、周辺や愛知県内を希望しています。

○問 23 で現在の住宅から住み替えたいと回答した 85 名の住み替えたい地域については、「現在の住まいの近く」(11.8%)と「同じ小学校区」(14.1%)、「津島市内」(17.6%)と、40%程度は市内を希望しています。

○「海部地域」が 31.8%、「名古屋市」が 25.9%、「尾張の北部、西部(稲沢市、一宮市、小牧市など)」が 17.6%となっており、市内や海部地域、名古屋市をはじめ、多くが周辺地域や名古屋市、愛知県内を希望しています。

図表 4-6-1 住み替えたい地域



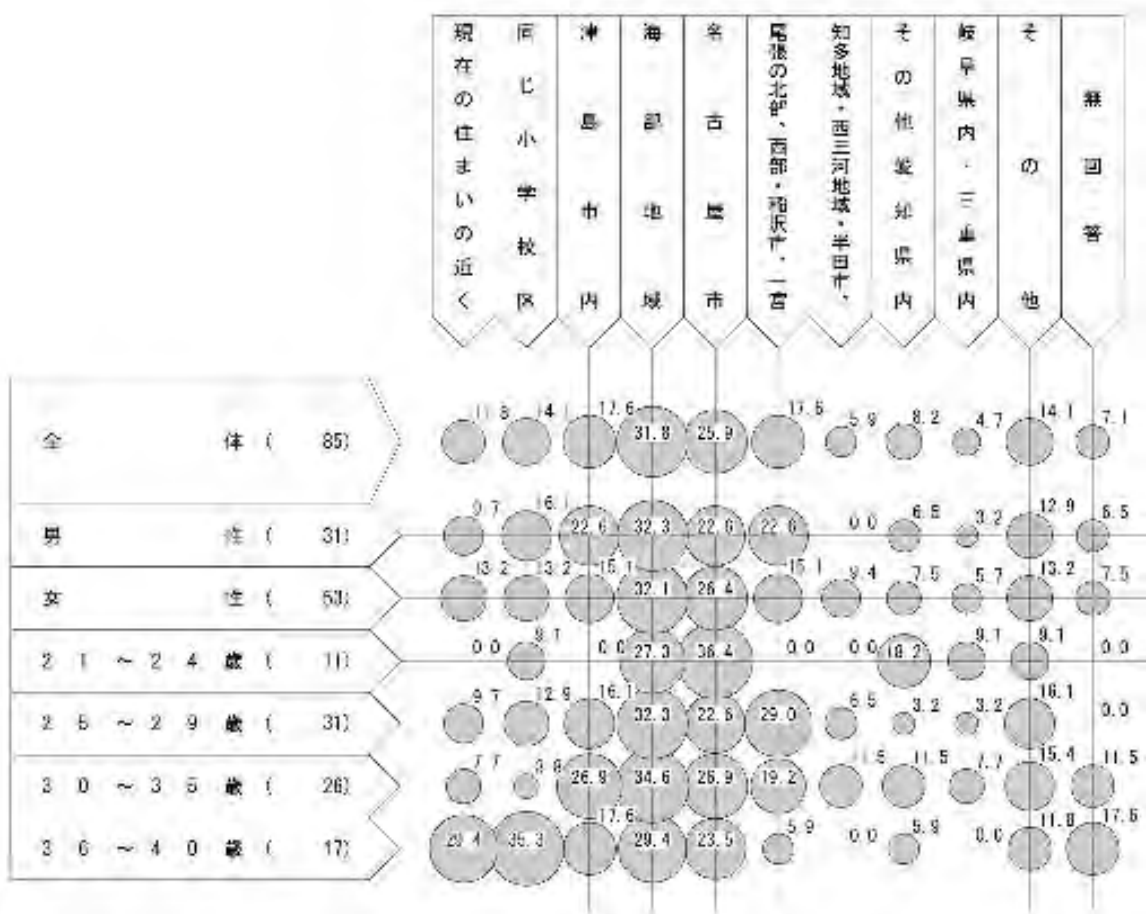
【性別】

○回答数が少ないですが、男性では「津島市内」と「名古屋市」（22.6%）が女性より高くなっています。

【年齢別】

○21～24歳で「名古屋市」（36.4%）、25～29歳で「尾張の北部、西部（稲沢市、一宮市、小牧市など）」（29.0%）、30～35歳で「津島市内」（26.9%）、36～40歳で「現在の住まい近く」（29.4%）などが他の年齢層よりも高くなっています。

図表 4-6-2 住み替えたい地域（性別・年齢別）



第5章 津島市の将来のまちについて

1. 居住者が増えるための政策

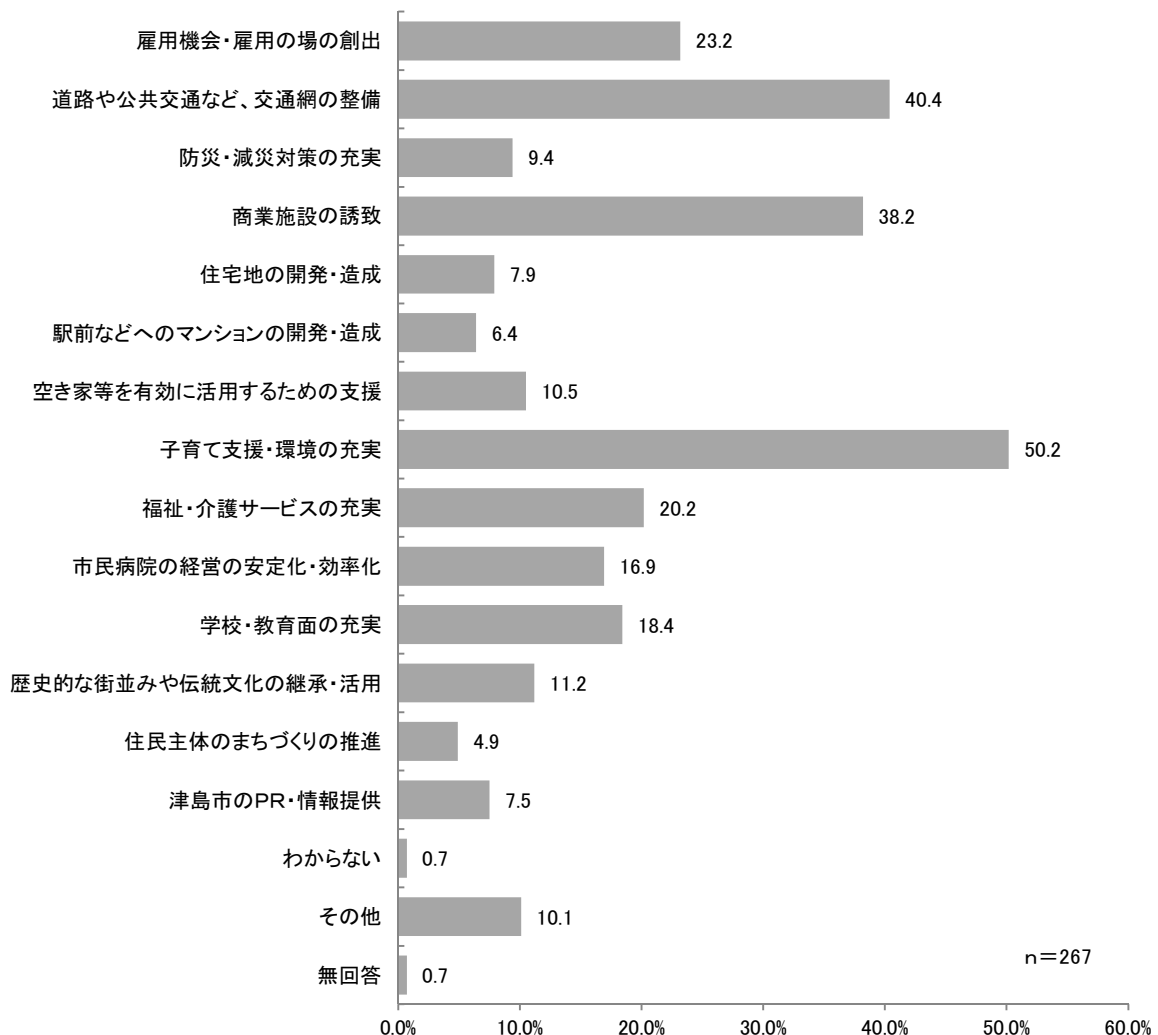
【3つまでの複数回答】

問 27 あなたは、津島市に多くの人が住むようになるには、行政がどのようなことに力を入れるべきだと思いますか。

◆定住促進策として、「子育て支援・子育て環境の充実」と「道路や公共交通（鉄道・バス）など、交通網の整備」、「商業施設の誘致」をはじめ、福祉、雇用創出、教育の充実などが望まれています

- 津島市に多くの人が住むようにするために、行政等が力を入れるべきこととしては、「子育て支援・子育て環境の充実」が 50.2%と高く、次いで「道路や公共交通（鉄道・バス）など、交通網の整備」（40.4%）、「商業施設の誘致」（38.2%）となっています。
- そのほか「雇用機会・雇用の場の創出」（23.2%）と「福祉・介護サービスの充実」（20.2%）、「学校・教育面の充実」（18.4%）が高くなっています。
- 子育て支援や福祉、公共交通機関の充実、買い物しやすい環境、雇用創出、教育の充実などが望まれています。

図表 5-1-1 居住者が増えるための政策



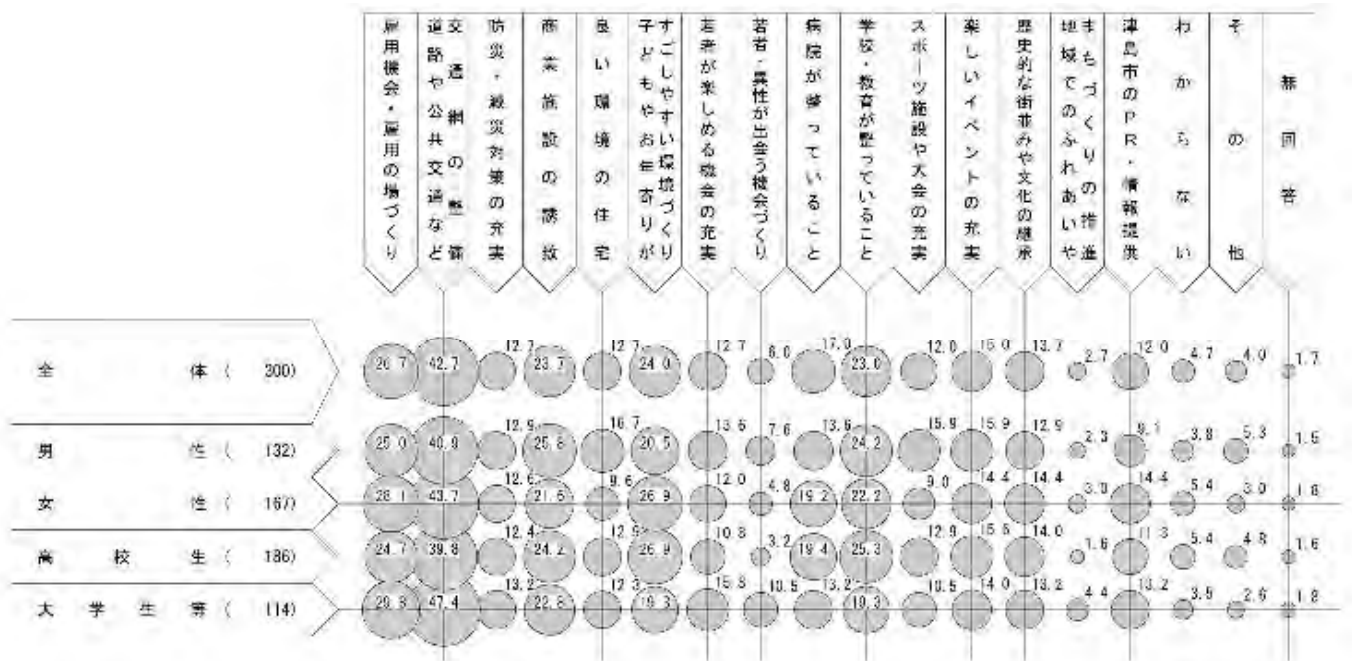
【性別】

○女性では「子育て支援・環境の充実」(55.3%)が男性より高くなっています。

【年齢別】

○21～24歳では「道路や公共交通(鉄道・バス)など、交通網の整備」(56.3%)、21～24歳と30から35歳では「商業施設の誘致」(43%以上)、25～35歳では「子育て支援・環境の充実」(53%以上)、36～40歳では「雇用機会・雇用の場の創出」(31.2%)などが他の年齢層よりも高くなっています。

図表 5-1-2 居住者が増えるための政策(性別・年齢別)



○設問でその他の選択した回答者の主な記述

子ども医療費の延長、医療費無料の期間の延長。(※4人)
学童保育の安定化《他の地域に比べ月謝が高い!!》
保育料の軽減
住民税を安く。(※4人)
若者には住みにくく、仕事に就きにくいので安定した職場提供
津島市中心部だけでなく東部地区、特に駅(青塚)前開発の発展、ロータリー駅から南の歩道整備。
天王通りの活性化、駅からの参拝道をタイルにする等観光資源の価値向上。
青塚駅周辺の整備(ロータリーや駅に近い無料駐輪場の整備)。
企業を誘致→初年度減税とか特区を作る。賃貸マンションでも「転入祝い」を出す。
もっと若い世代が行けるショッピングセンターを誘致。
名鉄電車の料金が高すぎる。JRを弥富から延長してほしい。
市内全域に下水道の整備。

問 28 高校生などが暮らしやすく、夢が持てるようになるには、どのようなことが必要だと思いますか。

◆**便利で快適に、自然豊かの中で安心して暮らせ、また、観光のまちになることが望まれています。**

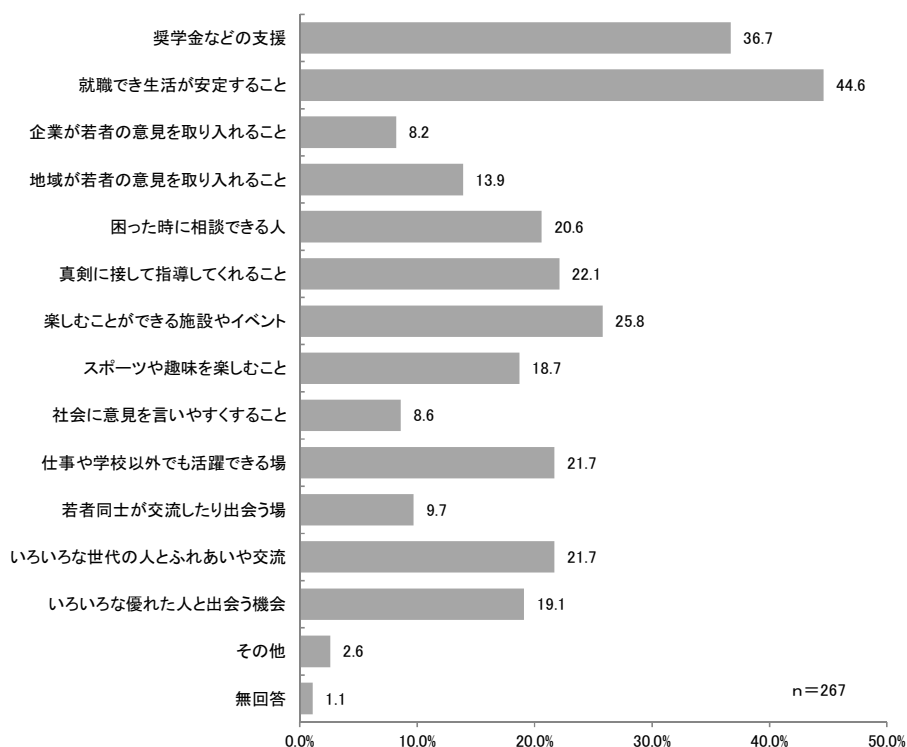
○津島市の将来のまちのイメージとしては、「便利で快適に暮らせるまち」が 45.1%で最も割合が高くなっています。次いで「豊かな自然環境に包まれた美しいまち」が 32.0%、「健康で安心して暮らせるまち」が 29.3%、「自然や歴史などを生かした観光のまち」が 18.5%と続いており、便利で快適に、自然豊かの中で安心して暮らせ、また、観光のまちになることが望まれています。

◆**就職でき生活が安定や進学した時の奨学金などの支援の割合が高く、次いで若者が楽しむことができる機会などの割合が高くなっています。**

○若者が暮らしやすいまちづくりのために必要なことは、「就職することができ生活が安定すること」が 44.6%、「進学した時に奨学金などの支援があること」が 36.7%、「若者が楽しむことができる施設やイベントがあること」が 25.8%と、高校生・大学生等の若者を対象としたアンケート調査結果と同様に、この3項目に回答が集まっています。

○次いで「若者に真剣に接して指導してくれること」(22.1%)、「若者が仕事や学校以外でも活躍できる場があること」と「いろいろな世代の人とふれあいや交流があること」(21.7%)、「困った時に相談に乗ってくれる人がいること」(20.6%)、「いろいろな優れた人と出会う機会があること」(19.1%)、「若者がスポーツや趣味を楽しむことができること」(18.7%)と回答が分かれています。

図表 5-2-1 若者が暮らしやすいまちづくり



【性別】

○男性では「いろいろな優れた人と出会う機会があること」(29.1%)と「地域が若者の意見を取り入れること」(17.5%)が女性よりも高くなっています。

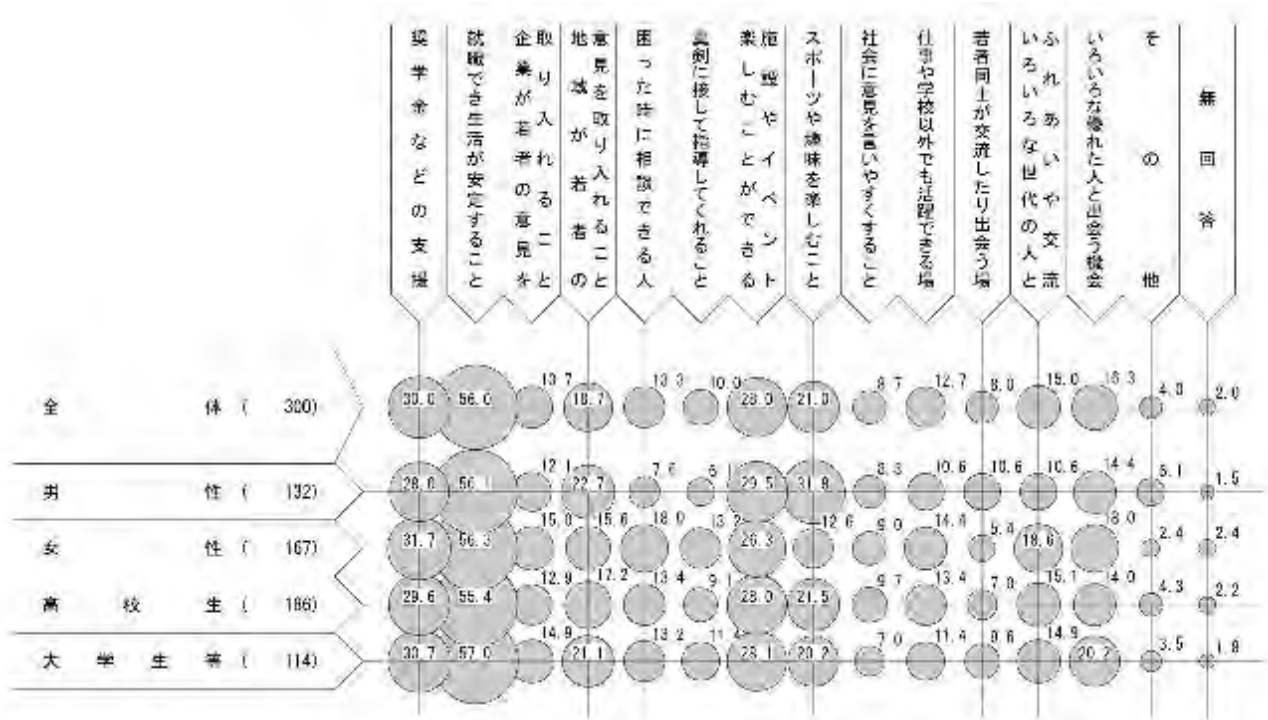
○女性では(27.7%)と「いろいろな世代の人とふれあいや交流があること」(25.2%)、「困った時に相談に乗ってくれる人がいること」(24.5%)が男性よりも高くなっています。

【年齢別】

○21～24歳では「若者が仕事や学校以外でも活躍できる場があること」(31.3%)と「若者に真剣に接して指導してくれること」(28.1%)など多くの項目が、他の年齢層よりも高くなっています。

○25～29歳では「就職することができ生活が安定すること」(50.8%)と「進学した時に奨学金などの支援があること」(41.3%)、30～35歳では「若者が楽しむことができる施設やイベントがあること」(32.9%)と「いろいろな優れた人と出会う機会があること」(24.1%)、36～40歳では「困った時に相談に乗ってくれる人がいること」(24.7%)などが高くなっています。

図表 5-2-2 若者が暮らしやすいまちづくり（性別・年齢）



第6章 自由記入意見のまとめ

○79人から約105件の意見をいただいています。主な意見は、次のとおりです。

1 結婚や子育て

1-1 結婚や婚活、非婚

東京都渋谷区で作られた「同性婚の結婚に相当する条例」を作るべき

1-2 妊娠、出産、子育て支援、子ども医療

子育てをしている側としてはもっと小さい子が遊べる公園を増やして欲しいです。医療費の免除が長くなるよう願います。

せめて小学生は医療費無料化を。他の地域では、一般的なことが成されていないのは、住みにくいと感じてしまう一つになってしまうと思います。

子ども医療費助成制度について、せめて義務教育修了までは、通院費も所得制限なしに対象を拡大し、無料にして下さい。周辺自治体並の制度でないと、子育て世代としては魅力が半減してしまいます。

海部津島で子ども医療の負担が小学生に上がるまでは津島だけで、年収200万未満は適応とは言いが、そんな状態の所に安心して住めない。

子供の医療にかかる負担が大きいので、軽減してほしい。この辺では津島市が最低。小学3年生まで医療費無料なんて有り得ない。

若い世帯が沢山津島市に住みたいと思えるように、子育て、教育にもっと力を入れて、医療費は小学6年生までは必ず無料にしてほしい。

子どもの医療費無料化を中学校卒業までにしてほしい。周囲の地域と比べて津島市が一番待遇が悪い。

小・中学生の医療費無料化など、子育て世帯の金銭的な負担の軽減、具体的な額はわからないが、他の市町村に比べて住民税が高いようなので減額をする。

子ども医療費中学生まで、安月給で子どもの医療費を払うのは生活面できびしい。市民病院のレベルの低下は驚いており、ドクターのレベルアップした方がいいのでは。

子どもの医療費問題等。津島と同様に税収に限りある愛西市がやっているのに津島がやらないのは「津島は子育てを応援する意志がない」と思われても仕方ないと思います。津島に土地があるので引っ越すことができませんが、そうでなければ愛西市に家を建てた。

子供医療費が無料だから賃貸に住む人は愛西市に新築するとよくきく。インフルエンザワクチンくらい無料になってほしい。子供2回と大人とかなりの出費。子供の習い事は充実している。小中学校の教育内容や取り組みを充実させれば子育てに便利な町になれるかも。

子育てをしている者として、やはり子ども医療費の拡大を願います。となりの市は中学3年まで津島市は小学3年まで、これでは津島市へ引っ越してこようと思う人は少ないと思います。我が子も持病もあり通院が必要です。

医療助成の拡充 (※8件程度同様の意見)

安心して子育てができるということが一番だと思います。マンションなどに住んでいると階下からの苦情に親の方が神経質になりつい過剰に怒ってしまうことも多く、母親自身も追いつめられます。親自身も周りを気にしすぎることなく、でも見守ってもらっている安心感＝地域のつながりが行政の後押しでもっとできると思います。

学童の利用料をもっと安く、みんなが利用できると思う。津島に引っ越してから学童が高いため利用できずにかぎっこになっている。

1-3 仕事と家庭の両立、女性の就業・社会進出

多子世帯への支援があまりにも無さすぎる。津島市は母親が働かざるを得ない状態になっています。これでは少子化のままだと思ふ。

他市町村と比べ子ども医療など福祉制度が充実していないため、賃貸であれば、となりの市町村に住みたいと思ってしまう。共働きで、親を頼れない世帯には、小学校に入ってからが大変です。（子ども会、学童の運営、PTA 習い事の送り迎えなど、など）ファミサポも4月～30分単位の支援でなくなってしまい、少し頼みたいと思っても費用がかさむので、利用をちゅうちょしています。自然が多く、子育てはしやすい地域だと思うので、子ども医療証の拡張や、学童の運営など行政がもっとかかわり、充実していけば、安心して子どもを産み育てられると思います。

1-4 その他、結婚、子育て

子ども向けの室内遊び場も欲しい。暑い日や雨の日に子どもと外出する場所がない。子どもが生まれて、津島市は子育てのしにくい街だと感じている。

2 産業振興・雇用

2-1 企業誘致、地元企業の活性化

将来の税収増加させるために、ベンチャー等企業誘地、研究施設誘地を積極的に実施する。田舎の考えでは前に進めない。マーク等、回答集計にコスト（人件費、時間）かからない方法で実施すべき。

また、産業の活性化に取り組み、成果を出してほしい。

財政面をもっと、豊かにしてほしい。観光産業の活性化。

転入居者を増やし、企業を誘致する。減税や土地、住居を買う時に補助金や、分割ローンを提供するなど。人が集まれば、おのずと、商業施設はできます。まずは人に住んでもらうことが最初。人が集まれば欲を持たず必ず住民税の減税。

乳幼児向け用品を扱う企業を津島市内に誘致して欲しい。津島市内には高齢者向けの企業が多く、買い物をするに非常に不便。

企業誘致に力をそそいで津島をお金持ちの市に作るべきである。そうすれば若者は自然に集ってくるのではないのでしょうか。市長がトップセールスで動くべきである。

税金が高いので企業を誘致して税金を安くする。

2-2 商業施設誘致、買い物の便

外部からの商業施設（会社等も）を多く津島市に来てもらうとどうでしょうか？封建的な考えはマイナス。市民HP、公共施設を充実させて欲しいです

買い物する場所が少なくヨシヅヤ（Yストア）しかないため、商品にかたよりがあり、名古屋へ出かけないといけない。もっとイオンやアピタなど他の店が入ると良いですね。

ヨシヅヤだけでなく、イオンとかアウトレットモールなど、他の大型商業施設があると良いかと思います。現状では、買い物は名古屋ですますことが多いです…。

ヨシヅヤが他の企業を入れないようにしているのはどうか。署名までして。夏祭も年々活気がなくなっている。他市のようにもっと力を入れて他からの客を入れる必要ある。

色々な面で考えが古いと思う。お金がないのはわかるがもっと老人だけでなく、子供にもお金を使ってほしい。津島にはこれといった店などやものが何もない。

近隣の市との地域助成に差がありすぎて不満だらけです。もっと色々な人に津島に来てもらいたいのであれば、ヨシヅヤのみでは不十分である。

古川交差点近くにはコンビニがないのであると便利だと思います

新規住民、新規企業の受け入れのための農地転用の促進

ショッピングモールの誘致。

2-3 その他、産業、雇用

雇用を増やせる工業団地を作ってほしい。

観光事業に力を入れてほしいです。

3 スポーツ、文化、教育

3-1 スポーツ

レジャー施設など誘致して楽しめる市にしてほしい。

3-2 文化・芸術、生涯学習、教育

津島市の歴史ある町をアピールした方がいい。

せっかく歴史のあるまちなので、まちなみの整備などに力を入れてはいかがでしょうか。

天王祭りを広めるため、宿泊施設は必要不可欠だと思います。何かしらの町興しをしてほしいです。

小・中学校の2学期制の廃止を望みます

4 生活環境

4-1 中心市街地

津島駅の活性化。駅の建物内に若い人が利用できるのがコンビニだけなのは寂しすぎる。駅周辺にももう少し若い人を呼び込める施設があると、市民としても散歩できるし、観光客も呼べるのではないかな。

天王通りの活性化に力を入れてほしい・治安の悪い地域の解消・パチンコ店の廃止。

津島駅の空き店舗を有効活用して駅前を活性化すると、市外からの人たちも、お金を使うので経済効果が見込まれると思います。今の駅前には市外から来た夫の家族からも魅力がないと言われます。

津島駅をキレイに改装してほしい。遊びにきた時のイメージが悪いと思う。古く暗いイメージ。津島には津島神社の天王祭などの良いものがあるので明るい駅に。駐輪場の整備とかお店を増やすとか、エスカレーターの設置など。

4-2 道路、インター

西尾線中央道（尾西→蟹江）の高速をつなぐ。

津島駅東側の逆送や路上駐車、通り抜けが目にあまる。信号のタイミングや矢印信号、一方通行標式の設置場所等見直しが必要ではないかな。

歩道がない。

・自転車専用道路を殆どの道路に設置し、逆走の徹底取り締りをするべき

津島の道路はガタガタ、陥没していて電柱が歩道に入っていて車、自転車、歩行者、すべての人に生活しにくい町。

歩道・車道が狭く危険なため整備して欲しい。名古屋に居たので住みにくさに戸惑った。

4-3 防災・防犯

・暴走族が五月蠅いです。警察と連携して取締りを強化して下さい。

暴走族が多いと思います。日比野駅でたむろする若者など、どうかしてほしいです。キセルで他の駅から日比野駅に集まるのを、見ました。無人駅だからやりたい放題です。交通と警察に問題があると思います。

4-4 鉄道、公共交通

東山線（地下鉄）を津島までつなぐ。

私の住む神島田校区は、電車ではJR永和駅が近く、高速道路にも乗りやすい、比較的交通の便も良く、緑の多い静かな良いところだと思っています。

名鉄の駅まで行きやすくしてほしい。

交通の便がもっと整備されるといいと思います。市民病院やスーパーにバスを使う方を見かけます。津島市の周りの市区町村では古いバス停でも軒があり、どこを発車したか分かるようになっていたりする。地域の行事も少ないと思うし、駅周辺、もう少しにぎやかになればと思います。

名鉄バスの本数を増やして下さい。

交通機関の整備、ベッドタウンとして発展を。

交通の便が悪い車がなくても暮らせる街づくり。

4-5 福祉・医療

医療費補助をもう少し延ばすなど、医療の面をもう少し充実させてほしいです。就学前までではなく20歳までとか、婦人系の医療の補助ももう少し充実させてほしいです。

福祉が他の市町村より悪いため、人口も減って、魅力もない。

市民病院が市の財政を圧迫していると思われるなら、民営化させれば良いと思います。（医療は崩壊すると思われませんが仕方無いことですね）

市民病院は、このままではいけない。売却すべき。救急車を受け入れられない病院は不要。その分の予算で救急車を何台か増やす方がよほど安心できる。いざというときに安心できる町です！となってほしい。

市民病院の借金や赤字で財政難。税金を企業からたくさん取る仕組みを作してほしい。

消防署からも遠いため、救急を呼んでも時間がかかってしまうのは何とかしてもらいたいです。命に関わる。

税金の医療費など他の地域と比べて劣るところがあるのは嫌だと思います。

市民病院の黒字化。

4-6 公園、生活環境

公園の数が増えると良い。

公園が少ない。

税金に見合った成果を出して下さい。大きい公園が欲しいです。

下水道が早くとおってほしいそうです。

5 定住促進、まちの魅力づくり

5-1 若者が暮らしやすい・楽しめるまち

商業施設をふやして、若者がもうすこし住みやすくしてほしい

現在の津島市だけで「若い世代が住みやすいまちづくり」ができるとは思わない。愛西市やあま市、弥富市や蟹江町などの隣接する市町との協力を提案する。

話を聴く機会や、出会う機会があればいいと思う。市の相談機関はマニュアルのことしか言わない。若者が会ってみたいと思う人とふれあうきっかけを。そして子供にも。大人も外の世界を見た方がいい。津島市では何も出来ない。ほぼ、セミナーや勉強会のため名古屋に出ている。津島に住むメリットなし。若者が出ていってしまうのは分かる。

5-2 まちの魅力づくり、PR

足りないのはクリエイティブさ。たくさん生き物がいて、緑が豊富で星が見られて、伝統を持っているが、クリエイティブな発想の欠如。制約を強みに変換して欲しい。これだけ地元の情報番組が増えているのに、活かさないのはもったいない。

近代的にすることばかりを考えるのではなく、京都のように古き良き町並みを目指すのもよいかも。

空き家が壊れていて怖い。祭や史跡で通る所がボロボロ（ノグチヨネ生家とか）。つしま駅も外壁がめくれているし、腐食した柱がむき出しで、観光客もがっかり。

津島市はすばらしい歴史があります。それを活かしてもっと他の人たちに伝え何か活動すればもっと津島市が盛り上がり若い子供も増えていくと思います。

津島市は歴史文化の古い良い伝統もあるのに、それを生かした活性化した町づくりができていない。

津島神社という宝があるのになぜ活用しないのか、知恵を出し合って津島神社というブランドを作ったらどうでしょうか。（登録だけがすべてでない）・

今も住みにくくはないですが魅力に欠けていると思う。今迄の津島のイメージではなく全く新しいものに取組んで素敵な街だと思われるのを他所からも人が入り活性化するのは…!?

観光に力を入れるなら、駐車場・トイレ・道路・看板の整備が必須。できなければ、観光なんかやめた方がよい。ごみが増え、治安が悪くなるだけ。

5-3 その他、定住、まちの魅力

市営住宅が古すぎるため、普通の家庭が入りづらい。母子ばかり。・生活保護者が多すぎる。・汚いあばら家が多い。普通の家庭がよりつかない。・母子の生活が良すぎる。
津島市について県外・海外にアピールしているが、「ここに永住したい」と思えるくらいの市政をしなければならない。特に小学生以下すべて医療費無料化、公共施設（市民プールなど）を市内在住者は割引してほしい
この町は、どこへ行っても年寄りばかり。若者は、年頃になると、ほとんどこの町を出て行ってしまいうようである。若者には住みにくい。特に若い女性が少ないのは少子化として死活問題。
住宅を開発、造成、津島駅の改築。
仕事から東京都と行ったり来たりしておりますが、国が違うくらいに言葉づかいがきたない方が多いです。まずは市民一人一人のそういう小さい所から何とかしなければ住みやすくなると思います。
その他にも、どちらかと言えば歴史的なものは中心部にあったりする為、そちらばかり注目され、神島田校区は忘れられているようにも感じます。
名古屋のベッタタウンには距離があるので難しいと思う。市議の方々にアイデアマンが居ればいいと思う。大運動会を開いて通知ではなく各家に行って参加をお願いするのはどうですか？労力はかかるけど大きなお金はかからないと思います
もっと津島市民である事について胸を張って言える様になるべきである。その為にも、他の自治体が5年も10年も前から行っている事を今から行う様では人口が流出することは当たり前だろう。
市営住宅不要。

6 その他

税金軽減
市の施策及び方針は市中心部だけで、東部や南部にはほとんど活かされてこない。全体の奉仕者である市職員が住民の痛みや苦しみをもっと理解することが第一歩です。
アンケートを2通送るなら、1つの封筒にした方がお金のムダ使いにならないと思います。
市民税を安くしてほしい。
他の地域に比べ税金が高すぎます。その割に有効な制度もない。税金が高く市を出たという方の話もたまに聞きます。今のままでは何の発展もない地味な市のままでしょう。
無駄な支出を見直し、本当に力を入れるべきところに予算を使ってほしい。